
Bibliography

日本国内から記録された自由生活性原生生物の文献目録 —繊毛虫類と有殻アメーバ類を中心として— (暫定版2008年4月現在)

島野智之^{1*}, 三好孝和^{2†}

¹宮城教育大学 EEC

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

² (独) 東北農業研究センター 福島研究拠点

〒960-2156 福島県福島市荒井字原宿南50

[†] 現在: 西九州大学健康福祉学部健康栄養学科生物学的研究室

〒842-8585 佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9

A Bibliography of Publications on Free-living Protists (Ciliates and Testate Amoebae) Recorded from Japan. —Preliminary Version, April 2008

Satoshi SHIMANO^{1*} and Norikazu MIYOSHI^{2†}

¹EEC, Miyagi University of Education, Sendai city, Miyagi, 980-0845 Japan

²Fukushima Campus, National Agricultural Research Center for Tohoku Region, Fukushima city, Fukushima, 960-2156 Japan

[†]Present address: Biological laboratory, Nishikyushu University, Saga city, Saga, 842-8585 Japan

はじめに

—なぜ、自由生活性原生動物の記録をまとめる必要があるのか?

原生動物 (特に藻類を除く原生生物) は、わが国における分布と多様性の現状がほとんど把握されていない生物群である。特に国内の寄生・共生性を除く自由生活性の原生動物の出現記録については、これまでまとめられたことがない。この原因には、原

生動物の中でも特定の分類群に偏った調査であったこと、また、日本では海産・淡水産などのハビタットごとに独自の研究分野を構成してきたため、生息状況などの情報交流がなく、日本における分布域の情報がかくまとめられたことがないこと、等があげられる。原生動物 (及び原生生物) の種分類学的研究及び多様性研究にとって、このことは大きな障壁となってきた。

しかし、近年地球環境の悪化による生物多様性への悪影響が加速し、多様性研究が求められていること、藻類を含む原生生物全体の体系学的研究が加速度的に進み (Adl et al., 2005など) その基盤となる研究が求められていること等のために、種分類学的情報の整理を出来る限り急ぐ必要性が生じている。また、Adl ほか (2007) は、原生生物に関する命名規

*Corresponding author

Tel/Fax: +81-22-214-3515

E-mail: satohis@staff.miyakyo-u.ac.jp

Received: 2 September 2008

約上の問題点（例えば原生生物が制約を受けるICBNとICZNによる規約等の相違）及び分類学的問題を指摘しているが、これらの原生生物を取り巻く分類学的背景にも、これまで以上の配慮が必要となっている。2002年に設立された日本分類学会連合（日本原生動物学会は加盟している）が、「日本産生物種数調査」を実施し、結果をwebで公開している（日本分類学会連合, 2003-）。本調査の趣旨は「5つの生物界の既知種数と推定未知種数を調査した結果を公開」することであるという。これに対して、日本原生動物学会は答えるべく、2007年総会で原生動物種名リスト作成委員会を設立した。

本報告は、これを踏まえて整理したものである。収集不足は今後可能な限り補足し、インターネットなどを通じて公開してゆく。

<http://sites.google.com/site/bibliographyjapan/> (2008年9月より)

一 自由生活性の原生動物について

原生動物は、さまざまな分類群に属する多系統の生物の集合体であり、体系学的研究にはまだこれから解明されるべきたくさん課題が残されている。その多くは、もともと原生動物界と植物界の微小藻類とされていたものの一部から構成される単細胞生物である。これまでは原生動物は、その体長があまりにも小さいことから、地域固有種は稀少であるという考え方が主流であったが（Finley, 1999）、近年、むしろ他の生物と同様に、地域固有種は非常に多く存在しているのだという考え方が見直され注目されるようになってきており（Foissner, 2004）、日本においても原生動物および原生生物相の調査の必要性が高まっている。

しかし、単細胞性の原生動物は細胞の固定が難しいものが多く、標本を必要とする種分類学的研究には大変難しい材料とされてきた。それゆえ、わが国における全域的な原生動物の分布調査は、ほとんど実施されてきていない。さらに、一般的に分布域も広く、海水、淡水そして土壌からも得られるという特徴をもつ分類群も、繊毛虫類・鞭毛虫類・アメーバ類など原生動物の主要なメンバーから知られている。また、動植物種の分布に関する継続的な情報収集が不可欠とされる「生物多様性国家戦略」中でも原生動物は触れられておらず、「環境省レッドデータブック」では取り扱い外の存在となっている。しかし、このような原生動物は、実際には多様性の宝庫であり、世界には少なくとも5万種、おそらく20万種以上は存在するといわれている。しかし、わが国のからの出現記録が、全く整理されていないため、貴重となる種がどの程度存在しているのかは不明で

ある。1918年川村多実二（=多實二）によって記載されたピワツボカムリ (*Diffugia biwae* Kawamura, 1918)は、2000年以降に絶滅が深刻に危惧されている（一瀬ほか, 2004）。

以上のようなことから、日本国内における自由生活性原生動物の記録をまずは、文献によって集約する必要があると考えた。しかし、原生動物は膨大な分類群を含むことは既に述べたとおりである。本稿では文献の収集は、原生動物のうち主に繊毛虫類と有殻アメーバ類が掲載されているものを中心であり、種に関する情報及び詳細な分布記録は集計中である。しかし、文献を集めただけの目録でも、原生動物が日本全国の実に様々な環境・ハビタットから記録されており、日本における原生動物の多様性に驚いていただけたらと思う。なお、日本においてはプランクトン調査の一部として、原生動物が調査されている例が多くさらにこの分野の調査により、文献が増える可能性の大きいことが容易に予想される。例えば琵琶湖については、さらに多くの資料があることは確認しているが、現時点ではこれらを含めることが出来なかった。

文献目録について

収録した論文は、国内外の研究者が日本または日本近辺にて、繊毛虫類と有殻アメーバ類を記録した論文・報告を掲載した。古い記録の探索ではその多くを、吉村(1944)を参考にした。また、新しい報告は2004年ころまでとした。原則として自由生活性種についての記録を中心としたが、事例の多いシロアリ・家畜の腸管内に共生するものを除いて、寄生・共生例についてはこれを含めた。自由生活種が人間に寄生した例等も掲載した（吉部ほか, 2003）。なお、海外では化石中（コハク中）から得られた繊毛虫類・有殻アメーバ類の記録があるが（例えば Schönborn et al., 1999など）、国内では筆者らはその例を知らない。

また、分類学学的な論文と、生態学的な論文はこれを区別した。生態学的な論文では、分類学的な論文よりも同定の精度が低いと考えたためである。主に繊毛虫類と有殻アメーバ類が掲載されているものを中心として、収集したものとしたが、決して網羅できているとは考えられないため文献目録を暫定版とした。文献目録中、明らかに分類学的な論文（例えば種記載論文など）は(*)を論文冒頭に付記した。環境庁（編）(1993)第4回自然環境保全基礎調査湖沼調査報告書を収録したが、このうち原生生物（繊毛虫・有殻アメーバ類）を、記録中に見出せなかったものには(**)を論文冒頭に付記しシリーズとして収録した。

収集した論文の表題には連続した番号のついているものがあり、これが明らかに途切れて収集されていないことがある。この理由として欠番は、1) 原生生物(繊毛虫・有殻アメーバ類)が含まれていない場合がほとんどであるが、特に古い文献に関しては、2) その論文を収集まで至らず確認できなかった場合がある。

文献目録は、下記の通りとした。文献の様式は原生動物学雑誌に、準じたが情報を損なわないように、わかるものについては号数などを付記した(号数を示さないと区別のつかない雑誌があるため)。

1. 淡水(止水:湖沼・沼地・湿地)
2. 淡水(流水:河川など)
3. 淡水(洞窟)
4. 水田
5. 土壌
6. 海水
7. 海水・淡水(汽水、砂浜など)
8. 温泉
9. 汚泥・下水
10. 寄生性・共生性・生物への付着(便乗性)
11. 総合的環境(様々な環境を含むもの)
12. 図鑑・書籍・書籍に準ずる報告書

おわりに

地球規模の環境問題の解決や、人類の持続的生存を保証する生態系の維持のためには、原生動物のように微小ではあるが、生態系の重要な役割を担っている生物こそを正確に評価しながら、どのような生物がどのくらい生息しているのかを把握することが必要であり、はじめて可能となる。

分子系統樹による視点(Keeling et al, 2005など)からみれば、原生生物(原生動物)は、真核生物の多様性そのものを支えており、この点からも原生生物(原生動物)の種分類及び多様性研究は、危急の課題である。現在は真核生物の高次分類体系の再構築が加速度的に進んでおり、新規の原生生物種の発見が、真核生物の高次の系統関係を変えろというダイナミックな時代である。しかし、進化原生生物研究者は、様々な環境からの新規の原生生物種の発見に果敢に取り組んでいる。種分類学的研究及び多様性研究は、その基盤となるものであり、これらの研究がなければ、種名さえ決定することはできない。

国内の種分類学的情報を整理することにより、日本国内の記録の多様性に触れていただくとともに、原生動物(原生生物)の種分類学的研究及び多様性研究のより一層の発展を望みたい。

謝辞

本研究は、平成17年度藤原ナチュラリストリ振興財団による支援をうけた。ここに感謝を申し上げたい。同様に、本研究は科研費(18770060)の助成を受けた。また、高橋忠夫先生(西九州大学)、村上敏文先生(独 東北農業研究センター)、独 東北農業研究センター情報資料課の皆様にはデータベース作成において多大なるご協力をいただいたことに感謝を申し上げたい。また特に、重中義信先生(広島大学名誉教授)、今井壮一先生(日本獣医生命科学大学)、洲崎敏伸先生(神戸大学)には、原稿作成への惜しみない援助と査読をいただき心より感謝を申し上げたい。

引用文献

- Adl, S.M., Leander, B.S., Simpson, A.G.B., Archibald, J.M., Anderson, O.R., Bass, D., Bowser, S.S., Brugerolle, G., Farmer, M.A., Karpov, S., Kolisko, M., Lane, C.E., Lodge, D.J., D.H., Mann, Meisterfeld, R., Mendoza, L., Moestrup, Ø., Mozley-Standridge, S.E., Smirnov, A.V. and Spiegel, F. (2007) Diversity, nomenclature, and taxonomy of protists. *Syst. Biol.*, 56, 684–689.
- Adl, S.M., Simpson, A.G.B., Farmer, M.A., Andersen, R.A., Anderson, O.R., Barta, J.R., Bowser, S.S., Brugerolle, G., Fensome, R.A., Fredericq, S., James, T.Y., Karpov, S., Kugrens, P., Krug, J., Lane, C.E., Lewis, L.A., Lodge, J., Lynn, D.H., Mann, D.G., Mccourt, R.M., Mendoza, L., Moestrup, Ø., Mozley-Standridge, S.E., Nerad, T.A., Shearer, C.A., Smirnov, A.V., Spiegel, F.W. and Taylor, M.F.J.R., (2005) The New higher level classification of eukaryotes with emphasis on the taxonomy of protists. *J. Eukaryot. Microbiol.*, 52, 399-451.
- Finlay, B. J., Esteban, G. F., Olmo, J. L. and Tyler, P. A. (1999) Global distribution of free-living microbial species. *Ecography*, 22, 138-144.
- Foissner, W. (2007) Dispersal and biogeography of protists: recent advances. *Jpn. J. Protozool.*, 40, 1-16.
- 一瀬諭・若林徹哉・森田尚・楠岡泰・西野麻知子 (2004) 琵琶湖産固有種ワツボカムリ(*Diffflugia biwae* Kawamura, 1918)の分布と消長について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 39, 57-63.
- 川村多實二 (1918) 日本淡水生物学 上巻. 裳華房, 東京.
- 環境省 (1995-) 生物多様性国家戦略. <http://www.biodic.go.jp/nbsap.html>
- 環境省 (1992-) 絶滅危惧種情報. http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html

- Keeling, P. J., Burger, G., Durnford, D. G., Lang, B. F., Lee, R. W., Pearlman, R. E. Roger, A. J. and Gray, M. W. (2005) The tree of eukaryotes. *Trends Ecol. Evol.*, 20, 670-676.
- 日本分類学会連合 (2003-) 日本産生物種数調査.
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ujssb/biodiv/index.html>
- Schönborn, W., Dörfelt, H., Foissner, W. Krienitz, L., and Schäfer, U. (1999) A fossilized microcenosis in triassic amber. *J. Eukaryot. Microbiol.*, 46, 571-584.
- 吉部貴子・大塚喜人・宮崎裕・室谷真紀子・柳富子・江崎孝行・今井壯一 (2003) 織毛虫 *Colpoda steini* が膀胱内に長期間寄生した1例. *日本臨床微生物学雑誌*, 13, 26-30.
- 吉村信吉(編) (1944) 日本湖沼学文献目録 第1集. 日本陸水学会誌, 別巻1, 1-131.

文献目録

1. 淡水 (止水: 河川・沼地・湿地)

- 赤野寿子 (1974) 余呉湖のプランクトン1. 淀川水系生物調査報告書, 4, 31-32.
- 赤野寿子 (1974) 琵琶湖浜大津におけるプランクトンの季節変化. *水処理技術*, 15(7), 673-682.
- 千葉尚二 (1973) 大野ダム湖の陸水生物学的研究 (第3報). *陸水学雑誌*, 34(1), 35-40.
- 大東信一・黒萩尚 (1964) 留萌郊外の2池沼藤山貯水池及び秋田沼の陸水学的観察資料. *水産孵化場研究報告*, 19, 111-118.
- *Edmondson, C. H. and Kingman, R. H. (1914) Notes on Japanese Protozoa with figures and descriptions of new and rare species. *Annot. Zool. Jpn.*, 8, 531-542.
- 江口弘・黒萩尚 (1959) 北海道中部宇津内人工湖の陸水学的条件について. *水産孵化場研究報告*, 14, 99-111.
- 江口弘・黒萩尚・伊藤小四郎 (1960) 北海道勇払原野池沼の陸水学的条件について. *水産孵化場研究報告*, 15, 9-15.
- *Foissner, W., Kusuoka Y. and Shimano, S. (2008) Morphology and gene sequence of *Levicoleps biwae* n. gen., n. sp. (Ciliophora, Prostomatida), a proposed endemic from the ancient Lake Biwa, Japan. *J. Eukaryot. Microbiol.*, 55, 185-200.
- 藤田輔世 (1905) 不忍池のプランクトン織毛蟲. *動物学雑誌*, 17(200), 185-186.
- 藤田惣吉 (1961) 大瀬崎にある淡水池のプランクトンについて. *陸水学雑誌*, 22(4), 230-233.
- 福井玉夫 (1929) 淡水産微生物の見物. *博物学雑誌*, 38, 71-76.
- 古田能久・山口教雄 (1968) 福島県楡原湖における魚類の分布構造と湖沼条件. *淡水区水産研究所研究報告*, 18(2), 81-93.
- 古田能久・杉目宗尚・田中正明 (1974) 夏季の河口湖における陸水生物相. *淡水研報*, 24(1), 1-9.
- *Hada, Y. (1939) Fresh water tintinninea in Japan. *Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc.*, 16(1), 38-44.
- *Hada, Y. (1966) Protozoan fauna of Lake Banryu at Masuda City, Shimane Prefecture. *Bull. Suzugamine Women's Coll., Nat. Sci.* 12, 7-24.
- 羽田良禾 (1934) 阿寒湖の冬期のプランクトン. *陸水学雑誌*, 4(3), 96-100.
- 羽田良禾 (1937) 冬季に於ける北海道湖沼の生物学的研究. I. 阿寒バンケ・ペンケ両湖の冬季プランクトン. *植物及動物*, 5(9), 1613-1624.
- 羽田良禾 (1938) 釧路春採湖のプランクトン. *陸水学雑誌*, 8(3, 4), 396-409.
- 羽田良禾 (1938) 泥炭地池沼の生物. *日本学術協会報告*, 13, 431-435.
- 羽田良禾 (1939) 藻琴沼のプランクトン, 特に夜光虫に就いて. *植物及動物*, 7(2), 360-366.
- 羽田良禾 (1939) 大雪山沼の平泥炭地沼群の水質と生物. *生態学研究*, 5(4), 267-276.
- 羽田良禾 (1957) 石狩沼の動物プランクトンの季節的变化. *鈴峰女子短大研究集報, 自然科学*, 4, 71-91.
- 羽田良禾 (1958) 北海道十勝豊頃泥炭地沼のプランクトン. *鈴峰女子短期大学研究集報, 自然科学*, 5, 23-53.
- 羽田良禾 (1959) 北海道トムラウシ山湖沼群の生物学的研究. *鈴峰女子短期大学研究集報, 自然科学*, 6, 71-84.
- 羽田良禾 (1960) 北海道霧多布泥炭地沼の学術調査報告. *鈴峰女子短期大学研究集報, 自然科学*, 7, 7-39.
- 羽田良禾 (1963) 水蘇群落中の原生動物. *生物教材の開拓. 北海道学芸大学尻岸内臨海実験所*, 3, 10-16.
- 羽田良禾 (1967) 大雪山国立公園の主峰旭岳南斜面に散在する小山岳湖沼群のプランクトン. *鈴峰女子短大研究集報, 自然科学*, 13, 27-46.
- 羽田良禾 (1969) 三段峡および八幡高原の鮮苔群落中の原生動物. *広島県教育委員会 (編) 三段峡の陸水と生物, 広島県教育委員会, 広島, pp.225-259.*
- 羽田良禾 (1969) 樽床貯水池のプランクトン. *広島県教育委員会 (編) 三段峡の陸水と生物, 広島県教育委員会, 広島, pp.189-224.*
- 羽田良禾 (1977) 遊水池の原生動物 (後編). *広島修大論集, 人文編*, 17(2), 29-55.
- 羽田良禾・神代哲郎 (1966) 島根県益田市番龍湖のプランクトン. *鈴峰女子短大研究集報, 自然科学*, 12, 27-40.
- 羽田良禾・楠木義明 (1938) 豊似湖の水質と生物. *陸水学雑誌*, 8(2), 53-67.
- Hatano, H. and Watanabe, Y. (1981) Seasonal change of protozoa and micrometazoa in a small pond with leaf litter supply. *Hydrobiol.*, 85, 161-174.
- 林新治 (1956) 札幌近郊における *Paramecium* (ゾウリムシ) 属の分布と季節的変遷. *動物学雑誌*, 65(7), 287-289.
- 林新治 (1959) 札幌近郊に見られる織毛虫 (Ciliata). *動物学雑誌*, 68(6), 238-243.
- 樋口昌三 (1960) 湯原湖の陸水学的研究 (第1報). *陸水学雑誌*, 21(2), 87-98.

- 樋口昌三 (1968) 湯原湖の陸水学的研究 (第2報). 陸水学雑誌, 29(1), 13-20.
- 平井賢一 (1970) びわ湖の水生物帯における動物プランクトンとほふく動物の関係. 陸水学雑誌, 31(1), 1-14.
- 洞沢勇 (1935) 池沼に於ける plankton の水平分布と水深との関係に就いて. 陸水学雑誌, 5(4), 140-145.
- 藤松馨 (1938) 強酸性湖沼の生物に就て. 生態学研究, 4(2), 131-140.
- 一瀬論・若林徹哉 (1980) 琵琶湖南湖におけるプランクトンの季節的変動と生物学的水質判定について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 15, 53-67.
- 一瀬論・若林徹哉 (1982) 琵琶湖南湖におけるプランクトンの季節変動について (1980・1981). 滋賀県立衛生環境センター所報, 17, 78-94.
- 一瀬論・若林徹哉 (1984) 琵琶湖南湖におけるプランクトンの季節的変動について (1982-1983). 滋賀県立衛生環境センター所報, 19, 115-125.
- 一瀬論・若林徹哉 (1987) 琵琶湖における動物プランクトンの季節的変動について (1982-1985). 滋賀県立衛生環境センター所報, 22, 62-74.
- 一瀬論・若林徹哉・中村敏博 (1978) 浜大津港内に出現したプランクトンについて. 滋賀県立衛生環境センター所報, 14, 146-151.
- 一瀬論・若林徹哉・野村潔 (1998) 琵琶湖の1定点でのプランクトンの季節的変動について (平成9年度). 滋賀県立衛生環境センター所報, 33, 138-143.
- 一瀬論・若林徹哉・野村潔 (1998) 琵琶湖南湖における動物プランクトン相の変遷 (1982-1997). 滋賀県立衛生環境センター所報, 33, 144-160.
- 一瀬論・若林徹哉・森田尚・楠岡泰・西野麻知子 (2004) 琵琶湖産固有種ビワツボカムリ (*Diffugia biwae* Kawamura, 1918) の分布と消長について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 39, 57-63.
- 飯間紀子 (1963) びわ湖の石表面および水草の付着原生動物相. 奈良女子大学生物学会誌, 13, 5-6.
- 稲葉伝三郎 (1934) 昭和9年冬期の富士五湖. 陸水学雑誌, 4(3), 101-114.
- 伊藤隆・岩井寿夫 (1959) 養鰻池の水変りに関する研究 XV. コガタツボワムシ並びにゾウリムシの異常増殖を伴った水変り. 陸水学雑誌, 20(2), 56-64.
- 伊藤隆・岩井寿夫 (1959) 津市米津地区の異常酸性養鰻池の改良に対する施肥の効果. 陸水学雑誌, 20(2), 65-74.
- 巖埦子 (1971) 河口湖の湖沼学的調査報告. 奈良陸水生物学報, 4, 1-3.
- 門田定美 (1962) 1958年夏季における河口湖のプランクトンについて. 日本大学農獣医学部学術研究報告, 15, 54-61.
- 加瀬林成夫・須能正美・中野勇 (1957) 昭和30年霞ヶ浦北浦湖沼観測報告. 茨城県水産振興場調査研究報告, 2, 11-19.
- 加瀬林成夫・須能正美・中野勇・橋谷尚志 (1959) 霞ヶ浦における水位低下が水産生物に及ぼす影響の基礎的研究. 第1報 (概報). 茨城県 (編) 霞ヶ浦総合利水調査報告. 茨城県.
- Kato, K., Oh, S.-W., Yamamoto, H., Hanazato, T., Yasuda, I., Otuki, A. and Takahashi, M. (1992) Enclosure experiment on the control mechanism of planktonic bacterial standing stock. Ecol. Res., 7, 267-276.
- 金網善恭 (1962) 深泥池の陸水学的研究. 特にプランクトンと淡水藻 (ケイソウ, ツジミモ) について. 陸水学雑誌, 23(3,4), 112-132.
- 川村正雄 (1928) 木崎湖水温及び浮遊生物調査. 水産研究誌, 23(8), 248-265.
- Kawamura, T. (1960) Plankton succession of Lake Nukabira, an artificial lake in Hokkaido, for five years after being impounded. Jpn. J. Limnol., 21(3,4), 151-164.
- Kikuchi, K. (1927) Notes on the diurnal migration of plankton in Kizaki Lake. J. Coll. Agric. Tokyo Imp. Univ., 9(3), 177-197.
- Kikuchi, K. (1930) A comparison of the diurnal migration of plankton in eight Japanese lakes. Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ. Ser. B, 5(1), 27-74.
- 菊池健三 (1926) 木崎湖に於けるプランクトンの晝夜移動. 動物学雑誌, 38, 2-3.
- 菊池健三 (1927) 琵琶湖, 木崎湖, 水月湖の湖水型とそれらのプランクトンの季節的消長. 動物学雑誌, 39, 438-439.
- 菊池健三・榎本淑子・館野文枝 (1942) 琵琶湖のプランクトンの垂直分布の周年変化概況. 陸水学雑誌, 12(1), 63-72.
- 小林徹・根本守仁・白杵崇広 (2001) 天然水域における動物プランクトンの夜間投光による蟻集採集. 滋賀県水産試験場研究報告, 48, 33-45.
- 小久保清治 (1941) 津軽十二湖のプランクトンの其の季節的变化. 水産学雑誌, 49, 17-40.
- Kokubo, S. and Mashiko, K. (1939) A limnological study of the Simokita group of Lakes, Aomori Prefecture, Japan. Commemoration of Pr. H. Yabe's 60th Birthday, pp.157-174.
- 小久保清治・川村輝良 (1940) 津軽十二湖のプランクトンに就て. 植物及動物, 8(12), 6-18.
- 小久保清治・川村輝良 (1941) 津軽十二湖鶏頭場池のプランクトンと其の環境条件. 動物学雑誌, 53(12), 572-581.
- 小久保清治・川村輝良 (1949) 青森縣上北湖沼群のプランクトンに就て. 陸水学雑誌, 14(2), 53-65.
- 小久保清治・益子帰来也 (1940) 下北湖沼群調査概報. 植物及動物, 8(3), 541-551.
- 小久保清治・佐藤正三 (1947) 十三湖のプランクトン. 生理生態, 1(4), 1-16.
- 小久保清治・徳井利信 (1948) 袴形池及び牛潟沼のプランクトン. 日本水産学会誌, 14(1), 61-65.
- 近藤淳美 (1963) びわ湖の水草付着生物による生物学的水質判定. 奈良女子大学生物学会誌, 13, 3-4.
- Kosaka, T. (1994) Life cycle of *Paramecium bursaria* syngen 1 in natural pond. Zool. Sci., 11, 517-526.
- *Kumazawa, H. (2002) Notes on the taxonomy of *Stentor* Oken (Protozoa, Ciliophora) and a description of a new species. J. Plank. Res., 24, 69-75.
- 倉沢秀夫・疋田静郎・青山莞爾 (1963) 左京沼, 荒沼および片倉沼の夏季の生物現存量 (I). 資源科学研究所彙報, 60, 115-123.

- 倉沢秀夫・疋田静郎・青山莞爾 (1963) 左京沼, 荒沼および片倉沼の夏季の生物現存量 (II). 資源科学研究所彙報, 61, 61-70.
- 倉沢秀夫・青山莞爾・白石芳一・手塚泰彦・本谷勲・小堀和夫・沖野外輝夫 (1967) 日光菅沼の生態学的研究 I. 水質とプランクトンの生産量 (1). 資源科学研究所彙報, 68, 62-77.
- 倉沢秀夫・青山莞爾・白石芳一・手塚泰彦・本谷勲・小堀和夫・沖野外輝夫 (1967) 日光菅沼の生態学的研究 I. 水質とプランクトンの生産量 (2). 資源科学研究所彙報, 69, 76-86.
- 黒萩尚 (1956) 鷹泊人工湖の陸水学的観察結果. 水産孵化場研究報告, 11, 135-153.
- 黒萩尚 (1959) 最近に於ける西竜人工湖の湖沼条件について (II). 水産孵化場研究報告, 14, 113-124.
- 黒萩尚・大東信一 (1967) 塘路湖のプランクトン (II) 動物性種類について. 水産孵化場研究報告, 22, 83-94.
- 黒萩尚・三原健夫 (1961) 北海道陸水観察資料 (I). 阿寒湖の昭和16年10月のプランクトン相について. 水産孵化場研究報告, 16, 85-89.
- 黒萩尚・長内稔 (1957) 最近に於ける北海道, 阿寒湖の初夏及び秋のプランクトンについて. 水産孵化場研究報告, 12, 29-38.
- 黒坂たき (1969) 鳥取県東郷池の陸水生物学的研究. 奈良陸水生物学報, 2, 24-27.
- Kusano, H. (1985) List of microphagotrophs and their food habits in Mizutori-no-numa Pond. Rept. Inst. Nat. Stu., 16, 99-112.
- 楠岡泰 (1995) 小さくて不思議な生き物原生動物. 湖国と文化, 70, 80-83.
- 益子帰来也 (1935) 夏期に於ける阿寒湖及屈斜路湖の観測. 陸水学雑誌, 4(4), 136-142.
- 益子帰来也・渡辺仁治・上條裕規 (1973) 猪苗代湖の湖沼学的研究. 陸水富栄養化の基礎的研究, 2, 19-22.
- Matsuyama, M. (1982) A dense community of ciliates of the Trachelocercidae family around the bacterial plate at the mid-depth of Lake Kaiike. Jpn J. Limnol., 43(4), 280-284.
- Matsuyama, M. and Moon, S.-W. (1999) Dissolved H₂S around *Chromatium* sp. blooming in Lake Kaiike protects against feeding pressure by a hypotrich ciliate. Jpn J. Limnol., 60(1), 87-96.
- 箕田冠一・有馬武司 (1963) 琵琶湖定期観測 (昭和36年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 16, 83-112.
- 宮下義信 (1932) 観察雑記 (I). 動物学雑誌, 43, 327-331.
- 宮内武雄 (1935) 霞ヶ浦のプランクトン. 陸水学雑誌, 5(1), 26-32.
- Mizuno, T. (1953) Limnological studies of the fresh-water ponds in the Southern part of Osaka Prefecture (I). 大阪学芸大紀要, B, 2, 113-124.
- Mizuno, T. (1956) Limnological studies of the fresh-water ponds on the Coast of the Inland sea of Seto (Okayama, Hiroshima and Oita Prefecture). 大阪学芸大紀要, 自然科学, B, 5, 72-82.
- Mizuno, T. (1961) Hydrobiological studies on the artificially constructed Ponds ('Tame-ike' Ponds) of Japan. Jpn. J. Limnol., 22(2, 3), 67-192.
- 水野寿彦 (1959) 北海道湖沼の水質とプランクトン. 大阪学芸大紀要, 8, 99-113.
- 水野寿彦 (1963) 霧島火口湖群および薩南湖沼の陸水生物学的研究. 陸水学雑誌, 24(1,2), 22-33.
- 水野寿彦 (1963) 西津軽地方における溜池群の陸水学的調査. 大阪学芸大紀要, 11, 163-170.
- 水野寿彦 (1981) プランクトン相より見た深泥池. 深泥池学術調査団 (編) 深泥池の自然と人. 京都市文化観光局, 京都, pp.181-188.
- 水野寿彦・小阪淑子 (1955) 水質とプランクトン. 大阪市自然科学博物館, 自然研究シリーズ2, 友ガ島の自然, pp.25-28.
- 水野寿彦・鉄川精 (1963) 兵庫県にあるダム湖の陸水生物学的研究. 大阪学芸大紀要, 自然科学, 12, 51-75.
- 森主一 (1938) 四国主として徳島県陸水の生物学的研究II. 吉野川下流河原中の小池の生物. 陸水学雑誌, 8(1), 22-27.
- Mori, S. and Miura, T. (1980) List of plant and animal species living in Lake Biwa. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. B., 8, 1-33.
- Mori, S. and Miura, T. (1990) List of plant and animal species living in Lake Biwa (Corrected third edition). Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ. Ser. Biol., 14, 13-32.
- 森主一 (1942) 琵琶湖南部に於ける浮游生物水平分布の一例. 陸水学雑誌, 12(2), 94-100.
- 森主一 (1945) 昭和9-12年間の琵琶湖南部浮遊生物の年周期遷移. 京大生理生態, 53, 1-28.
- 森主一・森緩二 (1935) 比良山上小女郎池に於けるプランクトン分布の異常に就いて. 陸水学雑誌, 5(3), 99-106.
- 森下郁子 (1974) 高山ダム湖生物調査報告. 1973年9月の場合. 淀川水系生物調査報告書, 4, 29-30.
- 森通保 (1941) 高松平野の溜池とプランクトン. 植物及動物, 9(12), 57-60.
- 森下郁子 (1974) 高山ダム湖生物調査報告. 1973年4月の場合. 淀川水系生物調査報告書, 4, 26-28.
- 森下郁子 (1974) 永源寺ダム湖 (愛知川) の生物相. 淀川水系生物調査報告書, 4, 19-21.
- 森下郁子 (1974) 芹川ダム湖の生物相の周年変化. 淀川水系生物調査報告書, 4, 14-18.
- 森田尚・前河孝志・里井晋一・津村祐司・鈴木隆夫 (1997) 琵琶湖定点定期観測 (平成5年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 46, 157-196.
- 森田尚・橋本佳樹・前河孝志・吉原利雄・的場洋・井嶋重尾・沢田宣雄 (1993) 琵琶湖定点定期観測 (昭和62年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 43, 72-115.
- 森田尚・橋本佳樹・前河孝志・吉原利雄・的場洋・井嶋重尾・沢田宣雄 (1993) 琵琶湖定点定期観測 (昭和63年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 43, 116-157.
- 村山三郎・税所俊郎 (1967) 池田湖のプランクトンについて. 鹿児島大学水産学部紀要, 16, 29-33.
- Nagatani Y., Yamaoka I., Sato N. (1981) Scale structure of the external surface of an amoeba. Zool. Mag., 90, 112-115.
- 中賢治・箕田冠一 (1965) びわ湖定期観測 (昭和38年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 18, 67-88.
- 中賢治・岩崎治臣・吉原利雄・山村金之助・大野喜弘・村長義雄 (1968) びわ湖定期観測 (昭和41年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 21, 15-71.

- 中賢治・岩崎治臣・吉原利雄・大野喜弘・山村金之助・村長義雄 (1971) びわ湖定期観測 (昭和43年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 23, 115-145.
- 中賢治・前河孝志・大野喜弘・吉原利雄・山村金之助・村長義雄・木村忠亮 (1973) びわ湖定期観測 (昭和45年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 24, 173-199.
- 中賢治・前河孝志・大野喜弘・千葉泰樹・水谷英志・村長義雄・田沢茂・伏木省三 (1973) びわ湖定期観測 (昭和46年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 24, 200-228.
- 中賢治・前河孝志・大野喜弘・吉原利雄・山村金之助・村長義雄・高橋誓・栗野圭一・氏家宗二 (1973) びわ湖定期観測 (昭和44年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 24, 144-172.
- 中賢治・前河孝志・大野喜弘・水谷英志・村長義雄・山中治・八木久則・水島久宜・田沢茂・伏木省三 (1976) びわ湖定期観測 (昭和48年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 26, 122-146.
- 中賢治・前河孝志・大野喜弘・水谷英志・山中治・村長義雄・田沢茂・伏木省三・八木久則・氏家宗二 (1976) びわ湖定期観測 (昭和47年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 26, 97-121.
- 中村郁子 (1969) 鳥取県湖山池の陸水生物学的研究. 奈良陸水生物学報, 2, 20-23.
- 永野己冬 (1937) 三瀧溝渠水棲動物概報 (第一報). 博物学雑誌, 35, 154-169.
- Narita, T., Okamoto, K. and Horie, S. (1984) Zooplankton. *In*: Lake Biwa, Monographiae Biologicae, Volume 54. Horie, S. (ed.). Dr. W. Junk Publishers, Dordrecht and Boston, pp.313-321.
- 根来健一郎 (1957) 伊庭内湖 (中ノ湖) のプランクトン. 陸水学雑誌, 19(2), 68-71.
- 二宮浩司・森田尚・里井晋一・前河孝志・鈴木隆夫 (1993) 琵琶湖定点定期観測 (平成3年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 43, 242-281.
- *Nozawa, K. (1938) Some new fresh-water suctoria. *Annot. Zool. Japon.*, 17, 247-259.
- 落合照雄・上原彦郎・横内冬彦 (1960) 居谷里の動物性プランクトン. 大町山岳博物館研究報告, 1, 1-15.
- 岡本晴夫・太田滋規・森田尚・前河孝志・里井晋一・鈴木隆夫・西森克浩 (1993) 琵琶湖定点定期観測 (平成2年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 43, 198-241.
- 岡野巧 (1974) びわ湖の動物プランクトン. 滋賀の生物編集委員会 (編) 滋賀の生物. 日本生物教育会第29回全国大会記念誌. 滋賀県理科教育研究会生物部会, pp.137-153.
- 岡野巧 (1983) びわ湖岸の動物プランクトン. 動物と自然, 13(9), 29-36.
- 岡野巧 (1988) 湖北の山門湿原内池塘のプランクトン (付, 塩津湾のプランクトン種のリスト). 滋賀科学, 1987, 41-48.
- 岡野巧 (1993) 永源寺ダム湖のプランクトン. 滋賀県立琵琶湖文化館研究紀要, 11, 23-32.
- 岡野巧 (1993) 琵琶湖岸のプランクトン. 滋賀県立琵琶湖文化館研究紀要, 11, 33-42.
- 太田豊三・森田尚・里井晋一・二宮浩司・吉岡剛 (1997) 琵琶湖定点定期観測 (平成6年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 46, 197-232.
- 長内稔・田中寿雄・今田和史 (1974) 北海道の湖沼, 人工湖の環境調査. 1. 頓別沼, 湧洞沼, 風蓮湖. 水産孵化場研究報告, 29, 125-146.
- 桜井善雄・渡辺義人 (1974) 北八ヶ岳湖沼および松原湖の現状と富栄養化. 日本水処理生物学会誌, 10(1), 22-30.
- 里井晋一・山中治・藤岡康弘・村長義雄・大野喜弘・田沢茂・水島久宜・伏木省三 (1980) びわ湖定期観測 (昭和53年度). 滋賀県水産試験場研究報告, 33, 46-96.
- *Shigenaka, Y., Watanabe, K. and Suzuki, T. (1980) Taxonomic studies on two heliozoans, *Echinospaerium akamae* sp. nov. and *Echinospaerium ikachiensis* sp. nov. *Annot. Zool. Japon.*, 53, 103-119.
- 篠田真一・瀬論・前河孝志・中村敏博・西村秀作・若林徹哉・松岡泰倫・松村周・川村弃郎 (1977) 余呉湖の水質およびプランクトンについて (昭和52年度). 滋賀県立環境センター所報, 13, 167-186.
- Sudzuki, M (1959) Limnological survey of the lake Nojiri on the tableland in middle Japan. I. *Bull. Biogeog. Soc. Jpn.*, 21, 45-62.
- Sudzuki, M. (1998) An analysis of colonization in freshwater micro-organisms. III. Observation and a simple experiment on dispersion via water. 桜文論叢, 46, 247-260.
- 鈴木実 (1965) 水量の少ない環境に生息する水生微小動物群集の生態学的解析III.: 地上性大形藻類の間隙水にみられる春季動物相とその変動. 動物学雑誌, 74(5), 135-148.
- 鈴木実 (1965) 水量の少ない環境に生息する水生微小動物群集の生態学的解析IV.: 地上性大形藻類の間隙水にみられる秋季動物相とその変動. 動物学雑誌, 74(6), 181-191.
- 鈴木実 (1982) わが国における野生生物の現況. VIII. 井ノ頭公園池に生息するマイクロ生物. 桜文論叢, 13, 173-186.
- 鈴木実 (1982) 井ノ頭公園 (東京) における付着性原虫類の分類と生態. 原生動物学雑誌, 15(1), 4-5.
- 鈴木実 (1982) わが国における野生生物の現況. VII. 福島県下に生息する動物たち. 桜文論叢, 12, 401-442.
- 鈴木実 (1998) わが国における野生生物の現況. X. 霞ヶ浦に於けるマイクロ動物. 桜文論叢, 48, 187-205.
- 高田昭・三田長衛 (1974) 余呉湖の生物. プランクトンを中心として. 滋賀の生物編集委員会 (編) 滋賀の生物. 日本生物教育会第29回全国大会記念誌. 滋賀県理科教育研究会生物部会, pp.178-192.
- Takamura, N. and Yasuno, M. (1983) Food selection of the ciliated protozoa, *Condylostoma vorticella* (Ehrenberg) in Lake Kasumigaura. *Jpn. J. limnol.*, 44(3), 184-189.
- 高尾寿美子 (1969) 再び湖岸の石付着生物の上面・下面でのちがい. 奈良陸水生物学報, 2, 30-33.
- 高尾寿美子・山崎純子・山田満里・渡辺仁治 (1969) 三方湖, 菅湖, 久々子湖のプランクトンと付着生物. 奈良陸水生物学報, 2, 12-14.
- 高安三次・飛島貴治 (1930) 湖沼調査. 第4編. 網走湖調査. 北海道水産試験場水産調査報告, 22, 1-61.

- 高安三次・近藤賢蔵 (1934) 湖沼調査. 第3編. 能取湖. 北海道水産試験場水産調査報告, 36, 49-83.
- Takemura, N., Shen, Y. and Xie, P. (2000) Species richness of Protozoa in Japanese lakes. *Limnology*, 1(2), 91-106.
- 田村正 (1952) 十三潟の冬季観測並びにプランクトンの観察. *陸水学雑誌*, 16(1), 6-14.
- 田中寿雄 (1976) 雨竜沼高層湿原の水質とプランクトン相について. *水産孵化場研究報告*, 31, 83-95.
- 田中正明 (1977) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (7), 関東地方の湖沼3. 中禅寺湖, 湯ノ湖, 菅沼, 丸沼, 大尻沼, 刈込湖, 切込湖. *水*, 19(12), 74-81.
- 田中正明 (1977) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (5), 関東地方の湖沼. 霞ヶ浦, 北浦, 伊奘沼, 手賀沼, 白沼. *水*, 19(10), 57-63.
- 田中正明 (1977) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (9), 中部地方の湖沼. 山中湖. *水*, 19(15), 57-64.
- 田中正明 (1978) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (11), 中部地方の湖沼3. 本栖湖, 精進湖. *水*, 20(3), 57-66.
- 田中正明 (1978) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (12), 中部地方の湖沼4. 野尻湖, 松原湖 (猪名湖), 松原長湖. *水*, 20(4), 57-63.
- 田中正明 (1978) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (15), 中部地方の湖沼7. 諏訪湖. *水*, 20(8), 57-65.
- 田中正明 (1978) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (17), 中部地方の湖沼9. 大正池, 権現池, 鶴ヶ池, 亀ヶ池, 御岳二ノ池・三ノ池, ミクリガ池. *水*, 20(12), 57-65.
- 田中正明 (1979) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (21), 中部地方の湖沼13. 白馬大池, 風吹大池, 小敷池, 科鉢池. *水*, 21(1), 26-32.
- 田中正明 (1979) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (24), 近畿地方の湖沼3. 琵琶湖北湖. *水*, 21(5), 32-39.
- 田中正明 (1979) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (25), 近畿地方の湖沼4. 琵琶南湖. *水*, 21(6), 33-39.
- 田中正明 (1979) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (26), 中国, 四国地方の湖沼1. 多鯰ヶ池. *水*, 21(7), 35-39.
- 田中正明 (1979) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (30), 九州地方の湖沼1. 諏訪の池, 志高湖. *水*, 21(12), 25-29.
- 田中正明 (1979) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (31), 九州地方の湖沼2. 御池, 六観音御池, 不動池. *水*, 21(13), 34-39.
- 田中正明 (1980) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (33), 九州地方の湖沼4. 池田湖. *水*, 22(1), 33-39.
- 田中正明 (1980) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (34), 九州地方の湖沼5. 鱧池, 鏡池. *水*, 22(3), 34-39.
- 田中正明 (1980) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (37), 再び北海道の湖沼3. ウトナイ沼, 三日月沼, 平木沼. *水*, 22(7), 35-39.
- 田中正明 (1980) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (39), 再び北海道の湖沼5, ポロ沼, クッチャロ湖 (頓別湖), 湊沸湖, ニクル沼. *水*, 22(10), 36-39.
- 田中正明 (1981) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (46), 再び北海道の湖沼12, オタドマリ沼, 姫沼. *水*, 23(4), 26-30.
- 田中正明 (1981) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (49), 再び本州の湖沼2. 震生湖. *水*, 23(7), 76-80.
- 田中正明 (1981) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (47), 再び北海道の湖沼13. 春採湖, 大雪山の湖沼 (姿見池, めがね上沼, めがね下沼, 花見沼, 羽衣沼, 瓢箪湖, トムラウシ湖). *水*, 23(5), 82-86.
- 田中正明 (1981) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (50), 再び本州の湖沼3. 佐鳴湖. *水*, 23(8), 64-68.
- 田中正明 (1981) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (53), 再び本州の湖沼6. 大座法師池, 沼ノ池, 桂池, 中古池. *水*, 23(12), 79-83.
- 田中正明 (1981) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (54), 再び本州の湖沼7. 四尾連湖. *水*, 23(13), 36-39.
- 田中正明 (1981) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (55), 再び本州の湖沼8. 湧池, 濁池, 鏡池, 菖蒲池, 銚子池, 底抜池, お釜池. *水*, 23(15), 35-39.
- 田中正明 (1982) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (56), 再び本州の湖沼9. 長沼, 唸沼. *水*, 24(1), 81-85.
- 田中正明 (1982) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (57), 再び本州の湖沼10. 田光沼. *水*, 24(3), 18-23.
- 田中正明 (1982) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (58), 再び本州の湖沼11. 平滝沼. *水*, 24(4), 30-35.
- 田中正明 (1982) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (59), 再び本州の湖沼12. 前潟, 内湖, 明神沼. *水*, 24(5), 36-39.
- 田中正明 (1982) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (60), 再び本州の湖沼13. ベンセ沼, 大滝沼. *水*, 24(6), 30-35.
- 田中正明 (1982) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (61), 再び本州の湖沼14. 十三湖. *水*, 24(7), 61-66.
- 田中正明 (1982) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (62), 再び本州の湖沼15. 冷水沼, タテコ沼, 雁沼. *水*, 24(8), 78-84.
- 田中正明 (1982) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (63), 再び本州の湖沼16. 作沼. *水*, 24(10), 35-40.
- 田中正明 (1982) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (66), 再び本州の湖沼19. 巫子沼. *水*, 24(13), 26-31.
- 田中正明 (1982) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (67), 再び本州の湖沼20. 市柳沼. *水*, 24(15), 64-69.
- 田中正明 (1983) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (68), 再び本州の湖沼21. 姉沼. *水*, 25(1), 61-65.
- 田中正明 (1983) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (69), 再び本州の湖沼22. 田面木沼. *水*, 25(3), 61-67.
- 田中正明 (1983) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (70), 再び本州の湖沼23. 内沼. *水*, 25(4), 65-69.
- 田中正明 (1983) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (71), 再び本州の湖沼24. 大沼. *水*, 25(5), 65-69.
- 田中正明 (1983) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (72), 再び本州の湖沼25. 荒沼. *水*, 25(6), 65-69.
- 田中正明 (1983) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (73), 再び本州の湖沼26. 左京沼. *水*, 25(7), 65-69.
- 田中正明 (1983) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (74), 再び本州の湖沼27. 尾駸沼. *水*, 25(8), 65-69.

- 田中 正明 (1983) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (75), 再び本州の湖沼28. 鷹架沼. 水, 25(10), 65-70.
- 田中 正明 (1983) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (76), 再び本州の湖沼29. 田茂沼池. 水, 25(11), 65-71.
- 田中 正明 (1984) 宇曾利山湖 (恐山湖) の陸水生物学的研究. 水処理技術, 25(6), 415-422.
- 田中 正明 (1984) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (86), 再び本州の湖沼39. 近藤沼. 水, 26(8), 69-74.
- 田中 正明 (1984) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (87), 再び本州の湖沼40. 多々良沼. 水, 26(10), 65-70.
- 田中 正明 (1984) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (88), 再び本州の湖沼41. 行人沼, 柄沼. 水, 26(11), 65-69.
- 田中 正明 (1984) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (89), 再び本州の湖沼42. 茂林寺沼. 水, 26(12), 65-69.
- 田中 正明 (1984) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (90), 再び本州の湖沼43. 治右衛門池. 水, 26(14), 65-69.
- 田中 正明 (1984) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (91), 再び本州の湖沼44. 一沼. 水, 26(15), 65-69.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (92), 再び本州の湖沼45. 菅生沼. 水, 27(1), 65-69.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (93), 再び本州の湖沼46. 洞沼. 水, 27(3), 61-65.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (94), 再び本州の湖沼47. 牛久沼. 水, 27(4), 61-67.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (95), 再び本州の湖沼48. 深泥池. 水, 27(5), 70-74.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (96), 再び本州の湖沼49. 蟻ヶ池. 水, 27(6), 78-81.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (97), 再び本州の湖沼50. 洗足沼. 水, 27(7), 66-71.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (98), 再び本州の湖沼51. 三宝寺沼. 水, 27(8), 73-77.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (99), 再び本州の湖沼52. 井の頭池. 水, 27(10), 63-67.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (100), 再び本州の湖沼53. 夜叉ヶ池. 水, 27(11), 67-73.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (101), 再び本州の湖沼54. 西之湖. 水, 27(12), 61-65.
- 田中 正明 (1985) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (102), 再び本州の湖沼55. 松ノ木内湖. 水, 27(13), 61-66.
- 田中 正明 (1985) 富士五湖のマイクロ生物の生態と分類に関する研究. I. 山中湖及び河口湖におけるマイクロ動物の変遷. 水処理技術, 26(7), 493-502.
- 田中 正明 (1986) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (104), 再び本州の湖沼57. 小松内湖 (雄松内湖). 水, 28(1), 90-93.
- 田中 正明 (1986) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (105), 再び本州の湖沼58. 小松内湖 (雄松内湖) その2. 水, 28(3), 67-70.
- 田中 正明 (1986) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (106), 再び本州の湖沼59. 曾根沼. 水, 28(4), 65-72.
- 田中 正明 (1986) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (107), 再び本州の湖沼60. 小屋場沼. 水, 28(5), 63-66.
- 田中 正明 (1986) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (108), 再び本州の湖沼61. 平湖. 水, 28(6), 63-67.
- 田中 正明 (1986) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (109), 再び本州の湖沼62. 野田沼. 水, 28(7), 79-85.
- 田中 正明 (1986) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (110), 再び本州の湖沼63. 伊庭内湖. 水, 28(8), 78-82.
- 田中 正明 (1986) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (111), 再び本州の湖沼64. 西小島池 (宮池). 水, 28(10), 75-77.
- 田中 正明 (1986) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (112), 再び本州の湖沼65. 萱野池, 稲山五丁池, 梶屋池, 本阿弥池 (一番割池). 水, 28(11), 76-81.
- 田中 正明 (1986) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (113), 再び本州の湖沼66. 鳥屋野潟. 水, 28(12), 75-77.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (116), 再び本州の湖沼69. 桜ヶ池. 水, 29(1), 29-31.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (117), 再び本州の湖沼70. 鶴ヶ池. 水, 29(3), 71-74.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (118), 再び本州の湖沼71. 桶ヶ谷沼. 水, 29(4), 63-65.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (119), 再び本州の湖沼72. 弥六沼. 水, 29(5), 61-64.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (120), 再び本州の湖沼73. 曾原湖. 水, 29(6), 82-85.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (121), 再び本州の湖沼74. 柳沼. 水, 29(7), 68-71.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (122), 再び本州の湖沼75. 毘沙門沼. 水, 29(8), 83-85.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (123), 再び本州の湖沼76. 龍沼 (竜沼). 水, 29(10), 72-76.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (124), 再び本州の湖沼77. 中瀬沼. 水, 29(11), 85-87.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (126), 再び本州の湖沼79. レンゲ沼. 水, 29(13), 37-39.
- 田中 正明 (1987) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (127), 再び本州の湖沼80. 青沼. 水, 29(15), 86-88.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (128), 再び本州の湖沼81. 深泥沼. 水, 30(1), 86-89.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (129), 再び本州の湖沼82. 瑠璃沼. 水, 30(3), 65-67, 76.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (130), 再び本州の湖沼83. 猪ヶ池. 水, 30(4), 89-91.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (131), 再び北海道の湖沼14. オコタンベ湖. 水, 30(5), 38-40.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (132), 再び北海道の湖沼15. 達古武沼. 水, 30(6), 92-94.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (134), 再び北海道の湖沼17. シラルトロ湖. 水, 30(8), 38-40.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (135), 再び北海道の湖沼18. 馬主来沼. 水, 30(10), 66-68.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (136), 再び北海道の湖沼19. ポン沼. 水, 30(11), 89-91.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (137), 再び北海道の湖沼20. モケウニ沼. 水, 30(12), 69-71.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (138), 再び本州の湖沼82. 大窪沼. 水, 30(13), 74-76.
- 田中 正明 (1988) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (139), 再び九州の湖沼1. 草千里ノ池水 (左ノ池, 右ノ池). 水, 30(15), 73-75.

- 田中正明 (1989) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (141), 再び九州の湖沼3. 水前寺池. 水, 31(3), 84-85.
- 田中正明 (1989) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (142), 再び九州の湖沼4. 上江津湖. 水, 30(4), 77-81.
- 田中正明 (1989) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (143), 再び九州の湖沼5. 下江津湖. 水, 30(5), 74-77.
- 田中正明 (1989) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (144), 再び本州の湖沼85. 千波湖. 水, 30(6), 81-84.
- 田中正明 (1989) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (145), 再び本州の湖沼86. 白石湖. 水, 31(7), 78-80.
- 田中正明 (1989) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (147), 再び本州の湖沼88. 琵琶池. 水, 30(10), 37-40.
- 田中正明 (1989) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (149), 再び北海道の湖沼21. 沖根辺沼. 水, 31(12), 72-73.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (150), 再び北海道の湖沼13. 厚岸湖. 水, 31(13), 65-67.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (152), 再び北海道の湖沼15. 火散布沼. 水, 32(1), 73-75.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (154), 再び北海道の湖沼17. 温根沼 (根室温根沼). 水, 32(4), 84-86.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (155), 再び北海道の湖沼27. 太郎湖. 水, 32(5), 74-76.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (156), 再び北海道の湖沼28. 次郎湖. 水, 32(6), 38-40.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (157), 再び北海道の湖沼29. 阿寒湖. 水, 32(7), 77-79.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (158), 再び北海道の湖沼30. オンネトー (阿寒オンネトー). 水, 32(8), 73-75.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (161), 再び本州の湖沼91. 諏訪湖. 水, 32(12), 84-87.
- 田中正明 (1991) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (172), 再び本州の湖沼102. 二の目潟. 水, 33(11), 81-83.
- 田中正明 (1991) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (171), 再び本州の湖沼101. 一の目潟. 水, 33(10), 69-74.
- 田中正明 (1991) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (167), 再び本州の湖沼97. 八郎潟 (八郎潟調整池). 水, 33(5), 82-87.
- 田中正明 (1991) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (165), 再び本州の湖沼95. 三の目潟. 水, 33(3), 93-96.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (159), 四国の湖沼1. 海老ヶ池. 水, 32(10), 65-68.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (160), 再び本州の湖沼90. 片上池. 水, 32(11), 85-87.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (162), 再び本州の湖沼92. かさらぎ池. 水, 32(13), 86-88.
- 田中正明 (1990) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (163), 再び本州の湖沼93. 大白池. 水, 32(15), 77-79.
- 田中正明 (1991) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (164), 再び本州の湖沼94. 船越池. 水, 33(1), 90-93.
- 田中正明 (1991) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (168), 再び本州の湖沼98. 浅内沼. 水, 33(6), 82-85.
- 田中正明 (1991) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (169), 再び本州の湖沼99. 皿沼. 水, 33(7), 84-88.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (170), 再び本州の湖沼100. 盃湖 (杯湖). 水, 33(8), 76-79.
- 田中正明 (1991) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (173), 再び本州の湖沼103. 鳴の谷地沼. 水, 33(12), 76-78.
- 田中正明 (1991) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (174), 再び北海道の湖沼31. 北光沼. 水, 33(13), 82-84.
- 田中正明 (1991) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (175), 再び北海道の湖沼32. 知西別沼. 水, 33(15), 38-40.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (177), 再び本州の湖沼105. くつわ池. 水, 34(3), 73-74.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (178), 再び本州の湖沼106. ニツ目の池. 水, 34(4), 37-40.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (179), 再び本州の湖沼107. 白池. 水, 34(5), 32-33.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (180), 再び本州の湖沼108. 神池. 水, 34(6), 77-81.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (181), 再び本州の湖沼109. 明神池. 水, 34(7), 69-73.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (183), 再び本州の湖沼111. 野守の池. 水, 34(8), 37-40.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (184), 再び北海道の湖沼33. 知床五湖第四湖. 水, 34(10), 82-84.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (185), 再び北海道の湖沼34. 知床第五湖. 水, 34(11), 93-95.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (186), 再び本州の湖沼112. 伊豆沼. 水, 34(12), 84-88.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (187), 再び本州の湖沼113. 内沼. 水, 34(13), 86-89.
- 田中正明 (1992) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (188), 再び本州の湖沼114. 蕪栗沼. 水, 34(15), 83-86.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (189), 再び本州の湖沼115. 長沼. 水, 35(1), 37-40, 69.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (190), 再び本州の湖沼116. 女沼. 水, 35(3), 29-31.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (191), 再び本州の湖沼117. 男沼. 水, 35(4), 88-91.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (192), 再び本州の湖沼118. 南長沼. 水, 35(5), 67-70.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (193), 再び本州の湖沼119. 姫沼. 水, 35(6), 75-77.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (194), 再び本州の湖沼120. 仙台大沼. 水, 35(7), 38-40.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (195), 再び本州の湖沼121. 阿川沼. 水, 35(8), 73-75.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (196), 再び本州の湖沼122. 半田池. 水, 35(10), 85-89.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (197), 再び本州の湖沼123. 日沼. 水, 35(11), 80-83.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (198), 再び本州の湖沼124. 松川浦. 水, 35(12), 82-86.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (199), 再び本州の湖沼125. 鳥の海. 水, 35(13), 82-85.
- 田中正明 (1993) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (200), 再び本州の湖沼126. 広浦. 水, 35(15), 31-35.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (201), 再び本州の湖沼127. 井戸浦. 水, 36(1), 74-76.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (202), 再び本州の湖沼128. 姫逃池. 水, 36(3), 84-87.

- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (203), 再び本州の湖沼129. 浮布池. 水, 36(4), 85-88.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (204), 再び本州の湖沼130. 西瀧の内. 水, 36(5), 71-74.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (205), 再び本州の湖沼131. 東瀧の内. 水, 36(6), 79-81.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (206), 再び本州の湖沼132. 只池. 水, 36(7), 86-89.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (207), 再び本州の湖沼133. 蓮池. 水, 36(8), 67-71.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (208), 再び本州の湖沼134. 大作古池. 水, 36(10), 78-81.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (209), 再び本州の湖沼135. 蛇池. 水, 36(11), 81-85.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (210), 再び北海道の湖沼35. 神仙沼. 水, 36(12), 69-73.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (211), 再び北海道の湖沼36. 長沼 (イワオヌブリ長沼). 水, 36(13), 70-73.
- 田中正明 (1994) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (212), 再び北海道の湖沼37. 大湯沼, 尊菜沼. 水, 36(15), 76-79.
- 田中正明 (1995) 豊橋市植田大池のプラントン相. 豊橋市自然史博物館研究報告, 5, 39-49.
- 田中正明 (1995) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (213), 再び本州の湖沼136. 不忍池. 水, 37(1), 74-78.
- 田中正明 (1995) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (214), 再び本州の湖沼137. 別所沼. 水, 37(3), 30-33, 39.
- 田中正明 (1995) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (215), 再び本州の湖沼138. 伊佐沼. 水, 37(4), 74-77.
- 田中正明 (1995) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (217), 再び本州の湖沼140. 鳥羽井池. 水, 37(6), 30-34.
- 田中正明 (1995) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (218), 再び本州の湖沼141. 山ノ神池. 水, 37(7), 36-40.
- 田中正明 (1995) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (219), 再び本州の湖沼142. 大沼. 水, 37(8), 78-81.
- 田中正明 (1995) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (220), 再び本州の湖沼143. 邑知湯. 水, 37(10), 64-67.
- 田中正明 (1995) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (221), 再び本州の湖沼144. 赤浦湯. 水, 37(11), 78-80.
- 田中正明 (1995) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (224), 再び本州の湖沼147. 八神池. 水, 37(15), 68-73.
- 田中正明 (1996) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (225), 再び本州の湖沼148. 小藪池. 水, 38(1), 66-69.
- 田中正明 (1996) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (226), 再び本州の湖沼149. 外甚兵衛沼. 水, 38(3), 77-81.
- 田中正明 (1996) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (227), 再び本州の湖沼150. 内甚兵衛沼. 水, 38(4), 74-77.
- 田中正明 (1996) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (228), 再び本州の湖沼151. 和田沼. 水, 38(5), 80-84.
- 田中正明 (1996) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (229), 再び本州の湖沼152. 吉治落堀. 水, 38(6), 79-83.
- 田中正明 (1996) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (231), 再び本州の湖沼154. 平四郎沼. 水, 38(8), 37-40.
- 田中正明 (1996) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (235), 再び本州の湖沼158. 猪鼻湖. 水, 38(13), 37-40.
- 田中正明 (1997) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (237), 再び本州の湖沼160. 大池. 水, 39(1), 77-79.
- 田中正明 (1997) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (238), 再び本州の湖沼161. 押上沼. 水, 39(3), 74-77.
- 田中正明 (1997) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (239), 再び本州の湖沼162. 権座沼. 水, 39(4), 38-40.
- 田中正明 (1997) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (244), 再び本州の湖沼167. 養の池. 水, 39(10), 82-86.
- 田中正明 (1997) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (246), 再び本州の湖沼169. 黒浜上沼. 水, 39(12), 72-76.
- 田中正明 (1997) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (247), 再び本州の湖沼170. 黒浜下沼. 水, 39(13), 36-40.
- 田中正明 (1997) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (248), 再び本州の湖沼171. 蓮池. 水, 39(15), 36-40.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (249), 再び本州の湖沼172. 堅田内湖. 水, 40(1), 63-67.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (250), 再び本州の湖沼173. 五反田沼. 水, 40(3), 65-70.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (251), 再び本州の湖沼174. 十ヶ坪池. 水, 40(4), 37-40.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (252), 再び本州の湖沼175. 浜分沼. 水, 40(5), 38-40.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (253), 再び本州の湖沼176. 貫川内湖北湖. 水, 40(6), 78-83.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (254), 再び本州の湖沼177. 貫川内湖南湖. 水, 40(7), 79-83.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (255). 沖縄の湖沼1. 豊作池. 水, 40(8), 72-77.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (256). 沖縄の湖沼2. 鴨池. 水, 40(10), 36-40.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (257). 沖縄の湖沼3. 月見池. 水, 40(11), 71-75.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (258). 沖縄の湖沼4. 水汲池. 水, 40(12), 59-63.
- 田中正明 (1998) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (260). 沖縄の湖沼6. 美晴池. 水, 40(15), 74-78.
- 田中正明 (1999) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (261). 沖縄の湖沼7. 淡水池. 水, 41(1), 65-69.
- 田中正明 (1999) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (263). 沖縄の湖沼9. 朝日池. 水, 41(4), 35-40.
- 田中正明 (1999) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (265). 沖縄の湖沼11. 大池. 水, 41(6), 72-77.
- 田中正明 (1999) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (266). 沖縄の湖沼12. 忍池. 水, 41(7), 63-67.
- 田中正明 (1999) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (267). 沖縄の湖沼13. 帯池. 水, 41(8), 37-40.
- 田中正明 (1999) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (268), 再び本州の湖沼178. 海老川沼. 水, 41(10), 59-61.
- 田中正明 (1999) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (269), 再び本州の湖沼179. 乾草沼. 水, 41(11), 81-84.
- 田中正明 (1999) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (270), 再び本州の湖沼180. 離湖. 水, 41(12), 59-63.
- 田中正明 (1999) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (271), 再び北海道の湖沼38. ベケレット湖. 水, 41(13), 68-70.
- 田中正明 (2000) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (273), 再び北海道の湖沼40. 兼金沼. 水, 42(1), 61-65.
- 田中正明 (2000) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (274), 再び北海道の湖沼41. 幌向大池. 水, 42(3), 76-80.
- 田中正明 (2000) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (276), 再び北海道の湖沼43. 越後沼. 水, 42(5), 36-40.

- 田中正明 (2000) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (277), 再び北海道の湖沼44. 鶴沼. 水, 42(6), 36-40.
- 田中正明 (2000) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (278), 再び北海道の湖沼45. 鮎沼. 水, 42(7), 63-66.
- 田中正明 (2000) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (280), 再び北海道の湖沼47. トイ沼. 水, 42(10), 67-71.
- 田中正明 (2000) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (281), 再び北海道の湖沼48. ピラ沼. 水, 42(11), 65-69.
- 田中正明 (2000) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (282), 再び北海道の湖沼49. 長沼. 水, 42(12), 37-40.
- 田中正明 (2001) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (286), 再び北海道の湖沼53. 恵茶人沼. 水, 43(3), 65-68.
- 田中正明 (2001) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (287), 再び北海道の湖沼54. 西沼. 水, 43(4), 61-64.
- 田中正明 (2001) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (290), 再び北海道の湖沼57. 新池. 水, 43(7), 65-68.
- 田中正明 (2001) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (291), 再び北海道の湖沼58. 蓴菜沼. 水, 43(8), 63-66.
- 田中正明 (2001) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (292), 再び北海道の湖沼59. 丹羽の沼. 水, 43(10), 36-40.
- 田中正明 (2001) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (293), 再び北海道の湖沼60. 茨散沼. 水, 43(11), 67-70.
- 田中正明 (2001) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (294), 再び北海道の湖沼61. ポント沼. 水, 43(12), 61-63.
- 田中正明 (2001) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (295), 再び北海道の湖沼62. ポロト湖. 水, 43(13), 63-66.
- 田中正明 (2002) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (297), 再び北海道の湖沼64. 樽前大沼. 水, 44(1), 63-66.
- 田中正明 (2002) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (299), 再び北海道の湖沼66. 花咲小沼. 水, 44(4), 63-66.
- 田中正明 (2002) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (300), 再び北海道の湖沼67. 宮島沼. 水, 44(5), 36-40.
- 田中正明 (2002) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (301), 再び北海道の湖沼68. 鏡沼. 水, 44(6), 37-40.
- 田中正明 (2002) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (302), 再び北海道の湖沼69. 三角池. 水, 44(7), 36-40.
- 田中正明 (2002) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (303), 再び北海道の湖沼70. 手形沼. 水, 44(8), 63-66.
- 田中正明 (2002) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (304), 再び北海道の湖沼71. 鶴田の沼. 水, 44(10), 70-74.
- 田中正明 (2002) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (305), 再び北海道の湖沼72. 本別海の池. 水, 44(11), 36-40.
- 田中正明 (2002) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (306), 再び北海道の湖沼73. サロベツ原野の池. 水, 44(12), 59-63.
- 田中正明 (2002) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (308), 再び北海道の湖沼75. 瓢箪沼. 水, 44(15), 37-40.
- 田中正明 (2003) 兼金沼のプラントン相について. 四日市大学環境情報論集, 6(2), 137-162.
- 田中正明 (2003) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (309), 再び北海道の湖沼76. ナカイチ沼. 水, 45(1), 36-40.
- 田中正明 (2003) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (310), 再び北海道の湖沼77. ホロニタイ沼. 水, 45(3), 72-75.
- 田中正明 (2003) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (311), 再び北海道の湖沼78. 床タン沼. 水, 45(4), 36-40.
- 田中正明 (2003) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (312), 再び北海道の湖沼79. トイドッキ沼. 水, 45(5), 59-62.
- 田中正明 (2003) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (313), 再び北海道の湖沼80. 笹田沼. 水, 45(6), 37-40.
- 田中正明 (2003) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (314), 再び北海道の湖沼81. 大沼. 水, 45(7), 69-72.
- 田中正明 (2003) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (316), 再び北海道の湖沼83. 千歳沼. 水, 45(10), 59-62.
- 田中正明 (2003) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (318), 再び北海道の湖沼85. メメナイ沼. 水, 45(12), 59-62.
- 田中正明 (2003) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (319), 再び北海道の湖沼86. サロベツ小沼. 水, 45(13), 36-40.
- 田中正明 (2003) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (320), 再び北海道の湖沼87. サロベツ長沼. 水, 45(14), 59-62.
- 田中正明 (2004) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (321), 再び本州の湖沼181. 下北大沼. 水, 46(1), 61-64.
- 田中正明 (2004) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (322), 再び本州の湖沼182. 根井沼. 水, 46(3), 37-40.
- 田中正明 (2004) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (323), 再び本州の湖沼183. 小田内沼. 水, 46(4), 38-40.
- 田中正明 (2004) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (326), 再び本州の湖沼186. 坂田池. 水, 46(7), 66-68.
- 田中正明 (2004) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (327), 再び本州の湖沼187. 鶴ノ池. 水, 46(8), 36-40.
- 田中正明 (2004) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (328), 再び本州の湖沼188. 朝日池. 水, 46(10), 59-63.
- 田中正明 (2004) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (329), 再び本州の湖沼189. 大池. 水, 46(11), 65-67.
- 田中正明 (2004) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (330), 再び本州の湖沼190. 小池. 水, 46(12), 59-61.
- 田中正明 (2004) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (332), 再び本州の湖沼192. 蜘蛛池. 水, 46(15), 59-63.
- 田中正明 (2005) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (333), 再び本州の湖沼193. 無行沼. 水, 47(1), 61-66.
- 田中正明 (2005) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (334), 再び本州の湖沼194. 芦浜池. 水, 47(3), 65-69.
- 田中正明 (2005) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (335), 再び本州の湖沼195. 大畑浄. 水, 47(4), 61-63.
- 田中正明 (2005) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (336), 再び北海道の湖沼88. カネサン沼. 水, 47(5), 59-61.
- 田中正明 (2005) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (337), 再び北海道の湖沼89. 湯沸沼. 水, 47(6), 36-40.
- 田中正明 (2005) プラントンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (339), 再び北海道の湖沼90. 育素多沼. 水, 47(8), 61-64.
- 田中正明・藤田智子 (2002) ウトナイ湖のプラントン相について. 四日市大学環境情報論集, 6(1), 1-25.
- 田中正明・永野真理子 (2004) 鰻池及び鏡池のプラントン相並びに底泥にみられる珪藻について. 四日市大学環境情報論集, 7(2), 145-171.
- 田中正明・武田正倫 (2000) 皇居の内濠より得られた原生動物, 輪虫類, 鯉脚類および撓脚類. 国立科博専報, 35, 233-244.
- 津田松苗・森下郁子・生田美和子・古屋八重子 (1973) 志賀高原湖沼群の水生物相. 水処理生物学会誌, 9(2), 6-12.
- Tsugeki, N., Oda, H. and Urabe, J. (2003) Fluctuation of the zooplankton community in Lake Biwa during the 20th century: a paleolimnological analysis. *Limnol.*, 4, 101-107.

- 築地由貴・植田真司・近藤邦男・清家泰・三田村緒佐武 (2004) 青森県汽水湖尾駁沼における動物プランクトンの出現特性. 陸水学雑誌, 65(3), 215-223.
- 上田拓史・木村英俊 (2001) 重信川流域における泉のプランクトン相. 陸水学雑誌, 62(3), 219-228.
- 上野益三 (1929) 乗鞍獄水棲動物概見. 信濃教育, 56, 1-11.
- 上野益三 (1934) 日光火山麓陸水の生態学的研究 II. 動物学雑誌, 46, 261-275.
- 上野益三 (1936) 日光の湖沼のプランクトン. 東照宮 (編) 日光の植物と動物. 養賢堂, 東京, pp.577-620.
- 上野益三 (1936) 阿寒湖群湖沼のプランクトン (北海道の陸水とその生物群聚, 豫報の二). 生態学研究, 2(2), 87-95.
- 上野益三 (1952) 長野県下伊那郡深見池. 下伊那教育叢書, 9, 1-119.
- 上野益三・星野隆一・水野寿彦 (1959) 大島三角池. 陸水学雑誌, 20(4), 174-180.
- 上野三男 (1937) 中山湖及び湖畔の動物相 (IX). 中山湖の原生動物 (2). 博物学雑誌, 36(65), 95-98.
- 上野三男 (1937) 中山湖及び湖畔の動物相 (II). 中山湖の原生動物. 博物学雑誌, 35(62), 560-569.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1977) 昭和52年の琵琶湖におけるプランクトンの季節的変動について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 13, 77-86.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1978) 昭和53年の琵琶湖におけるプランクトンの季節的変動について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 14, 135-140.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1980) 昭和54年の琵琶湖北湖におけるプランクトンの季節的変動について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 15, 45-52.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1980) プランクトンから見た琵琶湖北湖の富栄養化について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 15, 143-147.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1986) 昭和60年度の琵琶湖北湖におけるプランクトンの季節的変動について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 21, 62-68.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1990) 平成元年度の琵琶湖の2定点におけるプランクトンの季節的変動について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 25, 57-66.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1991) 平成2年度の琵琶湖の数定点におけるプランクトンの季節的変動について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 26, 70-83.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1993) 平成4年度の琵琶湖の1定点におけるプランクトンの季節的変動について. 滋賀県立衛生環境センター所報, 28, 131-136.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1994) 琵琶湖の1定点でのプランクトンの季節的変動について (平成5年度). 滋賀県立衛生環境センター所報, 29, 89-94.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1995) 琵琶湖の1定点でのプランクトンの季節的変動について (平成6年度). 滋賀県立衛生環境センター所報, 30, 89-92.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1996) 琵琶湖の1定点におけるプランクトンの季節的変動について (平成7年度). 滋賀県立衛生環境センター所報, 31, 79-83.
- 若林徹哉・一瀬諭 (1997) 琵琶湖の1定点でのプランクトンの季節的変動について (平成8年度). 滋賀県立衛生環境センター所報, 32, 66-70.
- 若林徹哉・一瀬諭・加賀爪敏明 (2003) 琵琶湖の一定点におけるプランクトンの季節変動 (2002年). 滋賀県立衛生環境センター所報, 38, 117-121.
- 渡辺仁治 (1952) 都介野村 (大和高原) の溜池とプランクトン相. 奈良県総合文化調査報告書, 都介野地区, pp.233-272.
- 渡辺仁治 (1953) 津風呂貯水池 (大和, 吉野郡) 建設予定地近辺の溜池とプランクトン相. 奈良県総合文化調査報告書吉野川流域龍門地区, pp.198-215.
- 渡辺仁治 (1966) 長野県飯綱高原大座法師池と論電ガ池のプランクトン. 陸水学雑誌, 27(1), 30-39.
- 渡辺仁治 (1967) 水月湖における夏季プランクトンとその垂直分布. 日本生態学会誌, 17(3), 100-104.
- 渡辺仁治 (1968) 北海道濤釣沼のプランクトン. 陸水学雑誌, 29(1), 52-63.
- 渡辺仁治 (1969) 鳥取県多鯰ヶ池の陸水生物学的研究. 奈良陸水生物学報, 2, 15-19.
- 渡辺仁治 (1972) 柴山瀉の汚水生物学的研究. 陸水富栄養化の基礎的研究, 1, 64-68.
- Yamamoto, K. (1967) First report of the regular limnological survey of Lake Biwa (Oct.1965 - Dec.1966). 3. Zooplankton. Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ., Ser. Biol., 1(1), 62-77.
- 山元孝吉 (1944) 琵琶湖堅田狭隕部. 琵琶湖沿岸帯生物群聚の研究 4. 生理・生態学研究業績, 6, 1-11.
- 山元孝吉 (1945) 琵琶湖沿岸部のプランクトン (I). 琵琶湖沿岸帯生物群聚の研究 8. 生理・生態学研究業績, 36, 1-18.
- 山元孝吉 (1954) 動物性プランクトン. 田中阿歌麿, 上野益三 (編) 松原湖群の湖沼. 南佐久教育会, pp.334-348.
- 山元孝吉 (1955) トカラ諸島中の島底無池の輪虫類と根足原虫類. 陸水学雑誌, 17(2), 53-54.
- 山元孝吉 (1955) 曾根沼の輪虫類 (附原生動物). 陸水学雑誌, 17(3), 112-116.
- 山元孝吉・伊藤隆・水野寿彦・山路勇 (1966) 動物プランクトン班中間報告. 近畿地方建設局 (編) びわ湖生物資源調査団中間報告, 近畿地方建設局, pp.469-495.
- Yamaoka, I. and Mizuhira V. (1987) X-ray microanalysis of the mineral components in the scales of an amoeba, *Cochliopodium* sp. (Testacea). Cell and Tissue Res., 247, 633-637.
- Yamaoka, I., Kawamura, N., Mizuno, M. and Nagatani, Y. (1984) Scale formation in an amoeba, *Cochliopodium* sp. J. Protozool., 31, 267-272.
- 安田郁子 (1975) 丸池と琵琶池 (志賀高原) のプランクトンと富栄養化について. 陸水富栄養化とその対策, 1, 18-21.

安田郁子・荒井優美・井上洋子 (1978) 志賀高原における腐植栄養湖のプランクトンと一次生産. 日本水処理生物学会誌, 14(2), 30-40.

2. 淡水 (流水: 河川など)

- Abdurahman・村上隆・見上一幸 (2002) 河川水質浄化に関わる原生動物繊毛虫の環境教育への活用, 仙台市内の河川水質調査から. 宮城教育大学環境教育研究紀要, 5, 11-17.
- 阿部ひとみ・松井ゆう (1972) 鹿跳付近の信楽川・瀬田川の石面付着生物. 淀川水系水質調査報告書, 1, 30-32.
- 洞沢勇 (1933) 東京市有楽橋際に於ける海水の影響調査. 陸水学雑誌, 2(3), 96-97.
- 松平康男 (1938) 長良川の定期観測結果. 陸水学雑誌, 8(3,4), 340-347.
- 松岡達臣・松尾奈美・前迫潤子・重中義信 (1983) 淡水産原生動物の分布. I. 広島市と東広島市の周辺地域. 広島大学生物学会誌, 49, 13-18.
- 水野寿彦・藤下英也 (1956) 淀川下流水域の生態区分. Planktonと水質の関係. 兵庫生物, 3(3), 135-139.
- 森主一 (1936) 四国主として徳島県陸水の生物学的研究. 吉野川のプランクトン (1). 陸水学雑誌, 6(4), 155-162.
- 森主一 (1937) 四国主として徳島県陸水の生物学的研究I 吉野川のplankton (2). 陸水学雑誌, 7(4), 158-172.
- 大阪市立野田中学校3年プランクトン班 (1959) 淀川下流の生物相調査. 第II報. 主として潮汐, 日周期活動について. *Nature Study*, 5(2), 21-22.
- 重中義信・杉山政則・重中祥子 (2001) 原生動物相の動態と環境評価. 太田川水系生物相学術調査報告書, pp.1-69.
- Suehiro, S. and Tezuka, Y. (1981) Seasonal change in ciliate populations in the bottom sediment of a polluted river. *Jpn. J. limnol.*, 42(1), 1-7.
- 鈴木實 (1978) わが国における野生生物の現況. I. 多摩川水系の生物相. 桜文論叢, 6, 233-255.
- 田中正明 (1980) 河川の付着藻類或いは堆積物中に生活するマイクロ動物の現存量に関する観察. 水処理技術, 21(2), 139-145.
- 田中正明 (1979) 矢作川の生物相と水質汚濁の現状. I. ミクロ動物相と水質汚濁. 日本水処理生物学会誌, 15(1), 1-10.
- 田中正明・宇佐見義博 (1979) 矢作川下流域のマイクロ動物相と水質汚濁の現状. 水処理技術, 20(8), 749-752.
- 田中正明・宇佐見義博・鳥居和孝 (1980) 都市小河川 (豊橋市柳生川) におけるマイクロ動物相及び藻類植生から見た水質汚濁について. 水処理技術, 21(5), 445-453.
- 山元孝吉 (1981) 原虫類 尾瀬ヶ原総合学術調査団研究報告, pp.831-840.

3. 淡水 (洞窟)

- Suzzuki, M. and Hosoyama, Y. (1991) Microscopic animals from Gyokusen-do Cave and its water quality. *J. Speleol. Soc. Jpn.*, 16, 38-44.
- Suzzuki, M. (1990) Free-living microscopic animals of limestone caves Akiyoshi-dai, Yamaguchi, Japan. *Bull. Akiyoshi-dai Mus. Nat. Hist.*, 26, 21-28.

4. 水田

- Kimura, M., Murakami, H. and Wada, H. (1989) Survival strategy of microfauna in a submerged paddy soil. *Soil Sci. Plant Nutr.*, 35(1), 1-7.
- 倉沢秀夫 (1956) 水田におけるPlanktonおよびZoobenthosの組成ならびにStanding cropの季節変化. 資源科学研究所集報, 41-42, 86-98.
- 黒田春三 (1930) 駒場水田の原生動物. 応用動物学雑誌, 2, 220-225.
- Kuwabara, R. (1999) Dynamic of water quality and planktonic community in a paddy of northeastern Hokkaido along with the growth of rice plan. *Proceeding of International Seminar on Development of Agribusiness and Its Impact on Agricultural Production in South-east Asia (DABIA III)*, Tokyo University of Agriculture, pp.434-442.
- 宮下義信 (1929) 水田のMicrofaunaに就いて. 動物学雑誌, 41, 26-27.
- 高橋永治 (1957) 庄内地区陸水生物の生態学的研究 (I) 水田の浮遊生物の季節的遷移. 山形農林学会報, 11, 26-32.
- 平誠・宝月欣二 (1987) 水田における施肥とプランクトン群集の種組成の関係. 陸水学雑誌, 48(2), 77-83.
- Yamazaki, M., Hamada, Y., Kamimoto, N., Momii, T. and Kimura, M. (2002) Effect of spring plowing on the spatial distribution of aquatic organisms in a paddy field during the off-crop season under drained conditions. *Edaphologia*, 69, 25-33.
- Yamazaki, M., Hamada, Y., Kamimoto, N., Momii, T. and Kimura, M. (2004) Habitats of aquatic organisms in a paddy field during flooding period. *Edaphologia*, 74, 1-10.
- Yamazaki, M., Hamada, Y., Kamimoto, N., Momii, T. and Kimura, M. (2004) Composition and structure of aquatic organism communities in various water conditions of a paddy field. *Ecol. Res.*, 19, 645-653.
- Yamazaki, M., Yasuda, N., Yamada, T., Ota, K. and Kimura, M. (2004) Comparison of aquatic organisms communities between paddy fields under rice-duck (aigamo) farming and paddy fields under conventional farming. *Soil Sci. Plant Nutr.*, 50, 375-383.

5. 土壌

- Aoki, Y., Hoshino, M. and Matsubara, T. (2007) Silica and testate amoebae in a soil under pine-oak forest. *Geoderma*, 142, 29-35.
- *Berger, H. and Foissner, W. (1989) Morphology and biometry of some soil hypotrichs (Protozoa, Ciliophora) from Europe and Japan. *Bull. Br. Mus. Nat. Hist. (Zool.)*, 55(1), 19-46.

- *Bonnet, L. (1977) Faunistique et Biogéographie des Thécamoebiens. 1. Thécamoebiens des Sols du Mexique. Bull. Soc. Hist. Nat. Toulouse, 113(1-2), 40-44.
- *Bonnet, L. (1979) Origine et Biogéographie des Distomatopyxis (Rhizopodes Thécamoebiens des Sols, Lobosia, Arcellinida). C. R. Acad. Sci. Paris, 288, Série D, 775-778.
- *Bonnet, L. (1979) Nouveaux Thécamoebiens du Sol (X). Bull. Soc. Hist. Nat. Toulouse, 115(1-2), 106-118.
- *Coûteaux, M.-M., (1978) Quelques thécamoebiens du sol du Japon. Rev. Écol. Biol. Sol, 15(1), 119-128.
- 日野巖 (1926) 土壤中プロトゾアに関する研究. 第三報: 土壌及び水中に於ける植物病原菌の絶滅に関する実験的研究. 農学研究, 28, 528-539.
- Ogawa, M., Kubokura, Y., Suzuki, M. and Suzuki, M. (1980) Rise and fall of protozoa and coliform bacteria in soil mixed with livestock excreta. Jpn. J. Publ. Health, 27(5), 229-236.
- Sandon H. (1927) The composition and distribution of the protozoan fauna of the soil. Oliver and Boyd, Edinburgh.
- Shibuya, M. (1927) Notes on the protozoa in the soil. Proc. Imp. Acad., Jpn, 3, 384-385.
- 澁谷正健 (1929) 本邦産土壌絨毛虫. 農事試験場彙報, 1(3), 199-214 +pl. XIX-XX.
- 鈴木實 (1964) 水量の少ない環境に生息する水生微小動物群集の生態学的解析I: 地上性コケ水にみられる水性動物相とその変動. 動物学雑誌, 73(6), 165-174.
- 鈴木實 (1964) 水量の少ない環境に生息する水生微小動物群集の生態学的解析II: 地上性コケ水動物群集の動物相構成に関する理論. 動物学雑誌, 73(9), 245-250.
- *Suzuki, S. (1954) Taxonomic studies on *Blepharisma undulans* Stein with special reference to the macronuclear variation. J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1, 15, 205-220.

6. 海水

- Akizawa, K., Iwasaki, N. and Ueda, H. (1998) List of microplankton in Uranouchi Inlet, Kochi, Japan during the summer of 1997. Bull. Mar. Sci. Fish., Kochi Univ., 18, 57-63.
- *Fernandez-Leborans, G., Hanamura, Y. and Nagasaki, K. (2003) Presence of two new species of suctorian (Protozoa: Ciliophora) epibiont on the marine crustacean isopod *Exciroloana chiltoni*. J. Mar. Biol. Assoc. U.K., 83, 447-452.
- *Fernandez-Leborans, G., Hanamura, Y. and Nagasaki, K. (2002) A new suctorian, *Flectacineta isopodensis* (Protozoa: Ciliophora) epibiont on marine isopods from Hokkaido (northern Japan). Acta. Protozool., 41(1), 79-84.
- 波部忠重・山路勇 (1955) 宮津湾の生物海洋学的特徴. 日本生物地理学会会報, 16-19, 399-406.
- Hada, Y. (1932) The tintinnoinea from the Sea of Okhotsk and its neighborhood. J. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. 4, 2, 37-59.
- 羽田良禾 (1932) 浮游性絨毛虫の一種と寄生単細胞生物との関係. 動物学雑誌, 44, 86-87.
- 長谷川藍・高津哲也・伊村一雄・南條暢聡・高橋豊美 (2003) 陸奥湾におけるヒラメ *Paralichthys olivaceus* 仔魚の摂餌生態. 日本水産学会誌, 69(6), 940-947.
- *Hu, X. and Suzuki, T. (2004) A new species of *Holosticha* (Ciliophora: Hypotrichida) from the coastal waters of Nagasaki, Japan: *Holosticha nagasakiensis* sp. nov. J. Mar. Biol. Assoc. U.K., 84(1), 9-13.
- Ichinomiya, M., Nakamachi, M. and Taniguchi, A. (2004) A practical method for enumerating cysts of ciliates in natural marine sediments. Aqua. Microb. Ecol., 37, 305-310.
- Ichinotuska, D., Ueno, H. and Nakano, S. (2006) The relative importance of nanoflagellates and ciliates as consumers of bacteria in a coastal sea area (Japan), where the oligotrichous *Strombidium* spp. and *Strobilidium* spp. dominate. Aquat. Microb. Ecol., 42, 139-147.
- *伊藤定人 (1958) 海産絨毛虫の2新種, *Euplotidium itoi* sp. nov. 及び *Gastrocirrhus trichocystus* sp. nov. 動物学雑誌, 67(6), 184-187.
- Kamiyama, T. and Arima, S. (2001) Feeding characteristics of two tintinnid ciliate species on phytoplankton including harmful species: effects of prey size on ingestion rates and selectivity. J. Exp. Mar. Biol. Ecol., 257(2), 281-296.
- Kamiyama, T., Tsujino, M., Matsuyama, Y. and Uchida, T. (2005) Growth and grazing rates of the tintinnid ciliate *Favella tarakaensis* on the toxic dinoflagellate *Alexandrium tamarense*. Mar. Biol., 147(4), 989-997.
- 神山孝史・会沢安志 (1992) 海底泥からの有鐘絨毛虫類の出現にかかわる温度と明暗条件の影響. 日本水産学会誌, 58(5), 877-884.
- Kato, S. and Taniguchi, A. (1993) Tintinnid ciliates as indicator species of different water masses in the western North Pacific Polar Front. Fish. Oceanogr., 2(3-4), 166-174.
- 川村嘉応・小野原隆幸・久野勝利・横尾一成・盛下勇 (2004) ノリ葉体に付着する吸管虫類. 佐賀県有明水産振興センター研究報告, 22, 9-15.
- Kim, Y.-O. and Taniguchi, A. (1995) Excystment of the oligotrich ciliate *Strombidium conicum*. Aqua. Microb. Ecol., 9(2), 149-156.
- Kim, Y.-O., Taniguchi, A. (1997) Seasonal variation of excystment pattern of the planktonic oligotrich ciliate *Strombidium conicum*. Mar. Biol., 128, 207-212.
- *Kim, Y.-O., Suzuki T., and Taniguchi, A. (2002) A new species in the genus *Cyrtostrombidium* (Ciliophora, Oligotrichia, Oligotrichida): its morphology, seasonal cycle and resting stage. J. Eukaryot. Microb., 49(4), 338-343.
- 丸茂隆三・川原田裕 (1951) 相模湾々中部におけるプランクトンの性状の日変化 (第1報). 中央気海報, 2(1), 33-42.
- 松村憲司・岩崎望・宗景志浩 (1995) 高知県浦ノ内湾における小型プランクトンの日周変動. Bull. Mar. Sci. Fish., Kochi Univ., 15, 105-115.
- Nakamachi, M. and Iwasaki, N. (1998) List of tintinnids (Protozoa: Ciliata) in Uranouchi Inlet, Kochi, Japan. Bull. Mar. Sci. Fish., Kochi Univ., 18, 65-76.

- Nozawa, K. (1942) Systematic studies of the plankton organisms occurring in Iwayama Bay, Palao. V. Two planktonic suctorians from Palao. *Trop. Biol. Sta. Studies.*, 2(3), 581-584.
- Ohno, M., Imoto, S. and Yatsuzuka, K. (1971) 浦の内湾の海洋学的調査 (1968-1969). 宇佐臨海実験所研究報告., 17(1), 1-43.
- Ota, T. and Taniguchi, A. (2003) Standing crop of planktonic ciliates in the East China Sea and their potential grazing impact and contribution to nutrient regeneration. *Deep Sea Res. II*, 50(2), 423-442.
- Ota, T. and Taniguchi, A. (2003) Conjugation in the marine aloricate oligotrich *Pelagostrobilidium* (Ciliophora: Oligotrichia). *Eur. J. Protistol.*, 39(2), 149-160.
- *尾崎佳正・柳生亮三 (1938) 東洋産海産繊毛虫の研究 (一). 広島文理科大学理科紀要 (動物学), 10(3), 21-52.
- *Ozaki, Y. and Yagiu, R. (1941) Studies of the marine ciliates of Japan, mainly from the Setonaikai (the Inland Sea of Japan). II. *J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1*, 9, 159-180.
- *Ozaki, Y. and Yagiu, R. (1941) Studies of the marine ciliates of Japan, mainly from the Setonaikai (the Inland Sea of Japan). I. *J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1*, 8, 165-184.
- *Ozaki, Y. and Yagiu, R. (1942) A new marine ciliate *Cirrhogaster monilifer* n. g. n. sp. *Annot. Zool. Jpn.*, 21(2), 79-81.
- *尾崎佳正・柳生亮三 (1944) 東洋産海産繊毛虫の研究 (二). 広島文理科大学理科紀要 (動物学), 10(9), 155-160.
- Raikov, I. B. and Kovaleva, V. G. (1996) Nuclear groups and diversity of macronuclei of *Kentrophoros tubiformis* (Ciliophora, Karyorelictida) from the Japan Sea. *Europ. J. Protistol.*, 32(3), 327-335.
- *Raikov, I. B. and Vokonitin, A. F. (1989) A new marine psammobiotic ciliate from the Japan Sea, *Trachelocerca obscura* sp. n. (Ciliophora, Karyorelictida, Trachelocercidae). *Acta Protozool.*, 28(1), 61-67.
- 杉田治男・長谷川高巳・出口吉昭 (1986) 下田田ノ浦湾から分離した繊毛虫 *Euploetes* sp. 日本大学農獣医学部学術研究報告, 43, 135-139.
- Suzuki, T. and Taniguchi, A. (1993) Successional sequence of ciliates in surface water after a pulsed addition of deep water. *Bull. Plank. Soc. Jpn.*, 40(1), 27-39.
- Suzuki, T. and Taniguchi, A. (1995) Sinking rate of loricae of some common tintinnid ciliates. *Fish. Oceanogr.*, 4(3), 257-263.
- Suzuki, T. and Taniguchi, A. (1998) Standing crops and vertical distribution of four groups of marine planktonic ciliates in relation to phytoplankton chlorophyll a. *Mar. Biol.* 132(3), 375-382.
- Taniguchi, A. (1999) Differences in the structure of the lower trophic levels of pelagic ecosystems in the eastern and western subarctic Pacific. *Progr. Oceanogr.*, 43(2-4), 289-315.
- 時岡隆 (1952) 愛知県六條潟寺津平坂地先及び愛媛県西條に於けるプランクトン調査報告. 水産庁浅海増殖調査報告, 1(4), 1-23.
- 時岡隆 (1952) 佐賀県有明海におけるプランクトン調査報告. 水産庁浅海増殖調査報告, 1(6), 1-29.
- 時岡隆・山路勇 (1950) 英虞湾の真珠漁場に関する研究(1). 第3報. 英虞湾プランクトンの質的分布. *生理生態*, 71, 19-61.
- Ueta, M. (1949) Hydrobiological observation on the Uranouchi Bay, Kochi Prefecture, Japan. *Bull. Jpn. Soc. Sci. Fish.*, 4, 190-198.
- Ueta, M. (1976) 土佐、浦の内湾のプランクトン図譜. 宇佐臨海実験所研究報告, 23, 19-24.
- *柳生亮三 (1944) 繊毛虫 *Condylostoma* の研究. 第一報 分類. 広島文理科大学理科紀要 (動物学), 10(10), 161-184.
- *柳生亮三 (1980) 伊豆半島沿岸および新島の吸管虫エフェロタ属. 生物学御研究所編, 保育社, pp.1-15.
- *Yagiu, R. and Shigenaka, Y. (1956) A new marine ciliate *Blepharisma candidum* n. sp. *J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1*, 16, 81-86.
- Yamazi, I. (1950) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan. I. Introductory notes and the plankton of Akkeshi Bay, Hanasaki Inlet and Nemuro Harbour. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 1(3), 93-113.
- Yamazi, I. (1951) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan. II. The plankton of Hakodate Harbour and Yoichi Inlet in Hokkaido. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 1(4), 185-194.
- Yamazi, I. (1952) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan. IV. The plankton of Nagasaki Bay and Nagasaki Harbour in Kyusyu. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 2(2), 305-318.
- Yamazi, I. (1952) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan, VI. The plankton of Nanao Bay. *Spec. Publ. Japan Sea Reg. Fish. Res. Lab. 3rd Ann. Found.*, 309-319.
- Yamazi, I. (1953) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan. VII. The plankton collected during the cruises to the New Yamato Bank in the Japan Sea. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 3(1), 75-108.
- Yamazi, I. (1953) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan. IX. The plankton of Onagawa Bay on the eastern coast of Tohoku district. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 3(2), 173-187.
- Yamazi, I. (1953) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan. X. The plankton of Kamaisi Bay on the eastern coast of Tohoku district. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 3(2), 189-204.
- Yamazi, I. (1954) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan. XI. The plankton of Kozima Bay in the Seto-Naikai (Inland Sea). *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 3(3), 399-421.
- Yamazi, I. (1954) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan. XII. The plankton of Miyako Bay on the eastern coast of Tohoku district. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 3(3), 423-441.
- Yamazi, I. (1954) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan. XV. The plankton of Yosa-Naikai and Kumihama Bay, enclosed bays on the Japan Sea coast. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 4(1), 127-145.
- Yamazi, I. (1955) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan, XVI. The plankton of Tokyo Bay in relation to the water movement. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 4(2,3), 285-309.

- Yamazaki, I. (1957) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan. XX. Diurnal change of plankton animals at an innermost station in Wakayama harbor. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 6(2), 209-224.
- 山路勇 (1952) 有明海の福岡県貝類苗地におけるプランクトンの季節遷移. 水産庁浅海増殖調査報告, 1(5), 1-16.
- Yamazaki, I. and Horibata, T. (1955) Plankton investigation in inlet waters along the coast of Japan XVIII. Seasonal succession of Plankton in Taizi Bay in the years 1951-1953. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 4(2,3), 321-336.

7. 海水・淡水（汽水、砂浜等を含む）

- Hanamura, Y. and Nagasaki, K. (1996) Occurrence of the sandy beach mysids *Archaeomysis* spp. (Mysidacea) infested by epibiontic peritrich ciliates (Protozoa). Crustac. Res., 25, 25-33.
- 石田秀樹・重中義信 (2001) 宍道湖における原生動物の分布調査. 島根大学生物資源科学部研究報告, 6, 1-5.
- Kaneda, M. (1960) The morphology and morphogenesis of the cortical structures during binary fission of *Chlamydomonas pedarius*. J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1, 18, 265-277.
- 金網善恭 (1973) 北陸地方におけるプランクトンと塩分濃度との関係について. 陸水学雑誌, 34(1), 24-34.
- *木下英司・洲崎敏伸・重中義信 (1994) 新たに発見された太陽虫 *Raphidiophrys* sp. 原生動物学雑誌, 27, 40-41.
- *Kinoshita, E., Suzuki, T., Shigenaka, Y. and Sugiyama, M. (1995) Ultrastructure and rapid axopodial contraction of Heliozoa, *Raphidiophrys* sp. J. Eukaryot. Microbiol., 42, 283-288.
- 中島拓男 (1986) 砂浜・岩石湖岸の生物化学的機能. 第3回自然浄化シンポジウム, pp.147-155.
- 中島拓男 (1988) 砂浜と微生物. 滋賀県琵琶湖研究所 (編) 琵琶湖研究. 集水域から湖水まで (滋賀県琵琶湖研究所5周年記念誌). 滋賀県琵琶湖研究所, pp.164-182.
- 根来健一郎・後藤敏一・傍島直樹・稲垣克己 (1976) 淀川の汽水域のワンドにおける魚類, Plankton, およびBenthosの種類組成に関する報告 第1報. 淡水魚, 2(1), 102-105.
- *重中義信 (1959) 絨毛虫の1新種 *Spirostomum yagiui* n. sp. 動物学雑誌, 68(10), 368-372.
- Sudzuki, M. (1976) Microscopical marine animals scarcely known from Japan. I. Micro- & meio-fauna around Kasado Island in the Seto Inland Sea of Japan. Proc. Jpn. Soc. Syst. Zool., 12, 5-12.
- Sudzuki, M. (1979) Psammobiont rhizopoda and actinopoda from marine beaches of Japan. Acta. Protozool. 18(2), 293-304.
- Sudzuki, M. (1979) Some aspects of the haline interstitial biota from Ryukyu Shoto, subtropical chain islands, Southwest Japan. Sesoko Mar. Sci. Lab. Tech. Rep., 6, 37-50.
- 鈴木實 (1976) わが国における野生生物の現況. II. 瀬戸内海とくに笠戸島周辺の海浜生物相. 桜文論叢, 7, 11-32.
- 鈴木實 (1977) わが国における野生生物の現況. III. 東京港湾内人工渚に生息する生物群. 桜文論叢, 8, 221-239.
- 鈴木實 (1978) 海浜における原生動物の動態. III. 新島の海浜砂泥帯に生息する原生動物. 原生動物学雑誌, 11(1), 8.
- 鈴木實 (1981) 海浜における原生動物の動態. VI. 新潟産殻アメーバ類. 原生動物学雑誌, 14(1), 7.
- 鈴木實 (1981) 海浜における原生動物の動態. VII. 福島産殻アメーバ類. 原生動物学雑誌, 14(1), 8.
- 鈴木實 (2001) わが国における野生生物の現況. XI. 知床半島に生息するマイクロ動物を中心として. 桜文論叢, 53, 161-190.
- 鈴木實 (2003) わが国における野生生物の現況. XII. 伊豆下田に生息する海浜動物群集とその現存量を中心として (「付」瀬戸内海、笠戸島周辺の海浜におけるマイクロ動物群集の網別・季節別個体密度表). 桜文論叢, 56, 307-337.
- 田中正明 (1996) プランクトンから見た本邦湖沼の富栄養化の現状 (234), 再び本州の湖沼157. 引佐細江. 水, 38(12), 71-73.

8. 温泉

- 江本義教 (1949) 温泉に棲む生物. 温泉, 17(4), 28-29.
- 伊東祐一・上村三男 (1941) 日本に於ける温泉動物の研究 XXIX. 奥伊豆諸温泉の動物相. 陸水学雑誌, 11(1), 1-6.
- 伊東祐一・上村三男 (1941) 日本に於ける温泉動物の研究 XXXI. 諏訪、赤沼及び下部温泉の動物相. 温泉科学, 1(3, 4), 98-102.
- 伊東祐一・上村三男 (1942) 日本に於ける温泉動物の研究 XXXII. 箱根温泉群の動物相. 陸水学雑誌, 12(1), 50-55.
- 岸田久吉 (1939) 温泉と動物. 温泉, 10(1), 14-19.
- Okada, Y. (1939) Studies on thermophilous animals of Japan XXIII. Characteristic of the animals found in sulphurous springs. Zool. Mag., 51(1), 72-74.
- 岡田弥一郎 (1939) 日本に於ける温泉動物 XIX. 硫黄泉内の動物相. 日本学術協会報告, 14(3), 501-503.
- 岡田弥一郎・伊東祐一・上村三男 (1937) 日本に於ける温泉動物の研究 VII. 東山温泉ぬるま湯の動物. 植物及動物, 5(7), 1275-1279.
- 岡田弥一郎・伊東祐一・上村三男 (1938) 日本に於ける温泉動物の研究 XIII. 長野県下二, 三温泉の動物相 (白骨、霊泉寺、大塩、地の獄谷、熊ノ湯、鹿教湯). 生態学研究, 4(2), 113-125.
- 岡田弥一郎・伊東祐一・上村三男 (1938) 日本に於ける温泉動物の研究 XIV. 積雪期に於ける温泉動物. 動物学雑誌, 50(6), 335-342.
- 岡田弥一郎・伊東祐一・上村三男 (1939) 日本に於ける温泉動物の研究 XXI. 東北地方の硫黄泉の動物相. 生態学研究, 5(1), 55-65.
- 岡田弥一郎・上村三男・伊東祐一 (1937) 日本に於ける温泉動物の研究 XI. 新潟県妙高山麓・燕・關温泉の動物相に就て. 動物学雑誌, 49(12), 456-467.
- 岡田弥一郎・上村三男・伊東祐一 (1939) 日本に於ける温泉動物の研究 XXII. 東北地方の塩類泉食塩泉単純泉及び其他温泉の動物相. 動物学雑誌, 51(1), 39-53.
- 岡田弥一郎・上村三男 (1938) 日本に於ける温泉動物の研究 XVII. 塩類泉静岡県賀茂郡下賀茂温泉の動物相. 陸水学雑誌, 8(3),

- 4), 483-488.
- 岡田弥一郎・上村三男 (1939) 日本に於ける温泉動物の研究 XXVI. 九州南端指宿温泉群の動物相. 陸水学雑誌, 9(2), 90-97.
- 岡田弥一郎・上村三男 (1940) 日本に於ける温泉動物の研究 XXVII. 大分県下の単純泉及炭酸泉の動物相. 陸水学雑誌, 10(1, 2), 41-67.
- 岡田弥一郎・上村三男 (1940) 日本に於ける温泉動物の研究 XXVIII. 淡水動物の温泉移行. 生態学研究, 6(1), 17-24.
- 上村三男 (1936) 日本に於ける温泉動物の研究 II. 日本学術協会報告, 11(3), 382-384.
- 上村三男 (1936) 日本に於ける温泉動物の研究 IV. 八甲田山酸ヶ湯温泉の原生動物相について. 生態学研究, 2(3), 171-179.
- 上村三男 (1937) 日本に於ける温泉動物の研究 V. 東山温泉の原生動物相に就いて. 日本学術協会報告, 12(2), 264-267.
- 上村三男 (1938) 日本に於ける温泉動物の研究 XX. 阿蘇温泉群のMicro-faunaに就て. 動物学雑誌, 50(12), 513-519.
- 上村三男 (1939) 日本に於ける温泉動物の研究 XVIII. 温泉の原生動物と温度及びpHとの関係. 日本学術協会報告, 14(1), 142-145.
- 上野福三 (1954) 温泉の動物と溪流の動物. 有馬温泉の研究, 97-98.

9. 汚泥・下水

- 福井玉夫・盛下勇 (1962) 活性汚泥中の吸管虫類について. 淡水生物, 8, 3-7.
- 廣瀬孝六郎・洞沢勇・原田利一・吉川春壽・福山富太郎・野邊地慶三 (1941) 活性汚泥法作業開始時期の水質変化. 特に活性汚泥生物相の發育に関する観察. 厚生科学, 1, 378-396.
- 洞沢勇 (1940) 活性汚泥生物の季節的消長ならびにその汚水浄化と平行的関係の2-3について. 厚生科学, 1(3,4), 476-499.
- 洞沢勇 (1943) 撒布濾床による放流水の生物相に就いて. 陸水学雑誌, 13(1), 17-22.
- Morishita, I. (1970) Studies on protozoa-populations in activated sludge of sewage and waste treatment plant. Jpn. J. Protozool., 3(1), 1-13.
- *盛下勇 (1961) 活性汚泥中の原生動物に関する分類学的研究. 第1報. 緑毛目の5新種. 横浜市大論叢, 13(1), 1-6.
- 盛下勇 (1962) 活性汚泥の生物相について. エアロアクセレータの活性汚泥生物相. 用水と廃水, 4(11), 841-844.
- *盛下勇 (1963) 活性汚泥より検出された緑毛目原生動物について. 1. *Vorticella* (ツリガネムシ) 属. 工業用水, 53, 43-52.
- 盛下勇 (1963) 汚水汚物処理装置に出現する原生動物 (III). 出現する原生動物リストと肉質虫類. 用水と廃水, 5(4), 305-320.
- 盛下勇 (1963) 汚水汚物処理装置に出現する原生動物 (IV). 用水と廃水, 5(5), 397-410.
- 盛下勇 (1963) 汚水汚物処理装置に出現する原生動物 (V). 用水と廃水, 5(7), 577-586.
- 盛下勇 (1964) 汚水処理装置から検出された緑毛目原生動物について. 水処理技術, 5(5), 8-16.
- 盛下勇 (1964) 分流式下水活性汚泥原生動物相について. 用水と廃水, 6(12), 13-20.
- 盛下勇 (1969) 活性汚泥棲原生動物群集について. 用水と廃水, 11(2), 135-143.
- 盛下勇 (1970) 活性汚泥棲原生動物の生態学的研究 (1). 用水と廃水, 12(5), 36-40.
- 盛下勇 (1970) 活性汚泥棲原生動物の生態学的研究 (2). 用水と廃水, 12(6), 46-59.
- 盛下勇 (1970) 活性汚泥棲原生動物の生態学的研究 (3). 用水と廃水, 12(8), 70-77.
- 盛下勇 (1970) 活性汚泥棲原生動物の生態学的研究 (4). 用水と廃水, 12(10), 68-86.
- 盛下勇 (1970) 活性汚泥棲原生動物の生態学的研究 (5). 用水と廃水, 12(11), 61-66.
- 盛下勇 (1971) 原生動物による活性汚泥処理法の判定. バイオテック, 2(9), 683-692.
- 盛下勇 (1971) 活性汚泥棲原生動物の生態学的研究 (6). 原生動物群集の挙動 その1. 用水と廃水, 13(3), 64-78.
- 盛下勇 (1971) 活性汚泥棲原生動物の生態学的研究 (7). 原生動物群集の挙動 その2. 用水と廃水, 13(4), 38-46.
- 盛下勇 (1971) 活性汚泥棲原生動物の生態学的研究 (8). 用水と廃水, 13(5), 74-81.
- 盛下勇 (1971) 活性汚泥棲原生動物の生態学的研究 (完). 用水と廃水, 13(6), 59-68.
- 堺好雄・金子安行 (1991) 活性汚泥の生物診断. 下水道協会誌, 28 (329), 15-18.
- Sudzuki, M. (1981) Faunistic and ecological studies of the sewage biota of Japan. Verh. Internat. Verein. Limnol., 21, 1094-1100.
- Sudzuki, M., (1981) Periphytic biota (Aufwuchs) in sewage and park waters. In: Some Approaches to Saprobiological Problems. Sudzuki, M. (ed.). Sansendo, Tokyo. pp.69-107.
- 鈴木實 (1981) わが国における野生生物の現況. VI. 下水に生息する動物たち. 桜文論叢, 56, 307-340.
- 鈴木實・丸山由喜雄 (1980) 下水と生物. 動物と自然, 10 (11), 4-13.
- 杉浦則夫・大内山高広・稲森悠平・須藤隆一 (1990) 霞ヶ浦における繊毛虫縁毛類の季節的消長. 日本水処理生物学会誌, 26 (2), 28-35.
- Sudo, R. and Aiba, S. (1971) Food habit of vorticellidae isolated from activated sludge. Jpn. J. Ecol., 21, 140-146.
- 須藤隆一・大越芳男 (1964) 活性汚泥生物の季節的变化. 水処理技術, 5(2), 43-49.
- 津田松苗・菊池允夜 (1957) エアロ・アクセレーターの活性汚泥生物の研究. 水道協会雑誌, 274, 47-55.

10. 寄生性・共生性・生物への付着 (便乗性)

- *阿部徹 (1927) *Balantidium* の分類に就きて (予報). 動物学雑誌, 39(462), 191-196.
- *Ikeda, I. (1917) A new astomatous ciliates, *Metaphrya sagittae* n. g., n. sp. Annot. Zool. Japon., 9, 317-324.
- *Imai, S., Miyazaki, H. and Nomura, H. (1991) Trichodinid species from the gill of cultured Japanese eel, *Anguilla japonica*, with the description of a new species based on light and scanning electron microscopy. Europ. J. Protistol. 27, 79-84.
- *Imai, S., Inouye, K., Kotani, T. and Ogawa, K. (1997) Two trichodinid species from the gills of cultured tiger puffer, *Takifugu rubripes*, in Japan, with the description of a new species. Fish Pathol., 32(1), 1-6.

- *Imai, S., Tsurimaki, S., Goto, E., Wakita, K. and Hatai, K. (2000) *Tetrahymena* infection in guppy, *Poecilia reticulata*. Fish Pathol. 35 (2), 67-72.
- *Katashima, R. (1951) Studies on the budding in *Ptychostomum filiferum* (Ciliata). J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1, 12, 141-145.
- *片島亮 (1952) ミミズに寄生する *Ptychostomum* について. 動物学雑誌, 61(7), 205-209.
- *Miyashita, Y. (1928) On a new parasitic ciliate *Lada tanishi* n. sp., with preliminary notes on its heterogamete conjugation. Jpn. J. Zool., 1, 205-218.
- *Miyashita, Y. (1929) Über eine primitive Form von Infusoria-Astomata, *Protanoplophrya stomata*, n. g., n. sp. Annot. Zool. Japon., 12, 289-293.
- *Miyashita, Y. (1933) Drei neue parasitische Infusorien aus dem Darne einer japanischen Süßwasseroligochaete. Annot. Zool. Japon., 14, 127-131.
- *Miyashita, Y. (1933) Studies on a freshwater foettingeriid ciliate, *Hyalospira caridinae*. n. g. n. sp. Jpn. J. Zool., 4, 439-460.
宮下義信 (1933) 観察雑誌 (II). 動物学雑誌, 44, 285-290.
- *Nozawa, K. (1939) Two new species of the fresh-water suctorians, *Pottsia* and *Metacineta*. Annot. Zool. Japon., 18, 58-64.
- *Oishi, T. (1978) On a new ciliate, *Ancistrum edajimanum*. n. sp., from a bivalve, *Tapes philippinarum* (Adams et Reeve). Proc. Jpn. Soc. Syst. Zool., 14, 1-4.
- *Oishi, T. (1987) A new species of the ciliates genus *Scyphidia* (Oligohymenophora, Scyphidiidae) from Hiroshima Bay, Japan. Proc. Jpn. Soc. Syst. Zool., 35, 1-5.
- Sikama, Y. (1938) Über die Weisspünktchenkrankheit bei Seefischen. J. Shanghai sc. Inst., 4, 113-127.
- 鈴木實 (1969) アワフキムシ (*Aphrophora*) の泡塊中に見出される微小動物とその起源. Sci. Rep. Jissen Women's Univ., 7, 135-140.
- *Urawa, S. and Arthur, J. R. (1991) First record of the parasitic ciliate *Trichodina truttae* Mueller, 1937 on chum salmon fry (*Oncorhynchus keta*) from Japan. Fish Pathol., 26(2), 83-89.
- *Uyemura, M. (1935) Über drei in der Süßwasser-Muschel (*Anodonta lauta* V. Martens) lebende Ciliaten (*Conchophthirus*). Sci. Reports Tokyo Bunrika Daigaku., Section B, 33, 89-100.
- *Yagi, R. (1933) Studies on the ciliates from the intestine of *Anthocidaris crassispina* (A. Agassiz). I. J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1, 2, 211-221.
- *Yagi, R. (1934) Studies on the ciliates from the intestine on *Anthocidaris crassispina* (A. Agassiz). II. J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1, 3, 211-222.
- *Yagi, R. (1935) Studies on the ciliates from sea urchins of Yaku Island, with a description of a new species, *Cryptochilidium ozakii* sp. nov. J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1, 3, 139-147.
- *Yamasaki, M. (1939) On some new ciliata living in the hind-gut of the roach, *Panesthia angustipennis* Illiger. Annot. Zool. Japon, 18 (1), 65-74.
- *尾崎佳正・金子榮 (1943) 邦産両棲類に寄生する *Balantidium* (原生動物) に就て. 広島文理科大学理科紀要, 10(4), 53-78.
- *尾崎佳正・金子榮 (1943) 蛙の腸内に寄生する *Nyctotherus* (原生動物) に就て. 広島文理科大学理科紀要, 10(5), 79-101.
- 宮下義信 (1933) 観察雑誌 (II). 動物学雑誌, 44, 285-290.
- 吉部貴子・大塚喜人・宮崎裕・室谷真紀子・柳富子・江崎孝行・今井壮一 (2003) 繊毛虫 *Colpoda steini* が膀胱内に長期間寄生した1例. 日本臨床微生物学雑誌, 13(1), 26-30.

11. 総合的環境 (様々な環境を含むもの)

- 盛下勇 (2003) 原生生物. In: 琉球列島の陸生生物. 西田睦・諸喜田茂充・鹿谷法一 (編著). 東海大学出版会, 東京, pp.115-126.
- *Suzuki, S. (1954) Taxonomic studies on *Blepharisma undulans* with special reference to the macronuclear variation. J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1, 15, 205-220.
- Sudzuki, M. (1992) Sampling localities, sites and dates of the survey on the southwestern islands of Japan by Nihon Daigaku during 1990-1991. Proc. Jpn. Soc. Syst. Zool., 46, 1-16.
- 鈴木實 (1968) 志賀高原「おたの申すの平」における微小動物群集生態 (予報). 北沢右三 (編) 陸上動物群集の二次生産力測定法. 文部省科学研究費特定研究 (生態圏の研究), 昭和42年度研究報告, 文部省, pp.170-187.
- 鈴木實 (1969) 志賀高原「おたの申すの平」における Microfauna とその動態に関する考察. 北沢右三 (編) 亜寒帯および温帯林生態系の生物生産力. 文部省科学研究費特定研究 (生態圏の研究), 昭和44年度研究報告, 文部省, pp.151-157.
- 鈴木實 (1971) 志賀高原におけるマイクロ動物の分類及び "Pioneer species". 北沢右三 (編) 亜寒帯および温帯林生態系の生物生産力. 文部省科学研究費特定研究 (生態圏の研究), 昭和45年度研究報告, 文部省, pp.186-193.
- 鈴木實 (1971) 淡水産マイクロ動物の Colonization に関する解析 I: 富士五湖湖畔における Colonization の動態. 動物学雑誌, 80(6), 191-201.
- 鈴木實 (1977) ミクロ動物の現存量に関する研究 I. 谷川岳ブナ林におけるマイクロ動物出現に関する量・質的解析. 北沢右三 (編) 各種生態系における生物の現存量に関する研究報告書. 環境庁, pp.159-188.
- 鈴木實 (1979) わが国における野生生物の現況. IV. 富士山地域に生息する動物たち. 桜文論叢, 9, 55-97.
- 鈴木實 (1979) ミクロ動物の現存量に関する研究 III. 西表島の陸上生態系に生息しているマイクロ動物における個体密度と推定現存量について. 北沢右三 (編) 各種生態系における生物の現存量に関する研究報告書. 環境庁, pp.213-241.
- 鈴木實 (1980) わが国における野生生物の現況. V. 西表島とその周辺に生息する動物たち. 桜文論叢, 10, 183-223.

12. 図鑑・書籍・書籍に準ずる報告書

猪木正三 (監修) (1981) 原生動物図鑑. 講談社, 東京.

環境庁 (編) (1993) 第4回自然環境保全基礎調査. 湖沼調査報告書. 北海道版. 環境庁, 東京, 1, 1-636.

** 環境庁 (編) (1993) 第4回自然環境保全基礎調査. 湖沼調査報告書. 東北版 (I) (青森県・秋田県・山形県). 環境庁, 東京, 2, 1-265; 5, 1-159; 6, 1-174.

環境庁 (編) (1993) 第4回自然環境保全基礎調査. 湖沼調査報告書. 東北版 (II) (岩手県・宮城県・福島県). 環境庁, 東京, 3, 1-101; 4, 1-131; 7, 1-208.

** 環境庁 (編) (1993) 第4回自然環境保全基礎調査. 湖沼調査報告書. 関東版 (茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県). 環境庁, 東京, 8, 1-99; 9, 1-62; 10, 1-105; 11, 1-31; 12, 1-48; 13, 1-33; 14, 1-28.

** 環境庁 (編) (1993) 第4回自然環境保全基礎調査. 湖沼調査報告書. 北陸・甲信越版 (新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県). 環境庁, 東京, 15, 1-153; 16, 16-40; 17, 1-56; 18, 1-63; 19, 1-87; 20, 1-254.

** 環境庁 (編) (1993) 第4回自然環境保全基礎調査. 湖沼調査報告書. 東海・近畿版 (岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・滋賀県・京都府・兵庫県). 環境庁, 東京, 21, 1-55; 22, 1-72; 23, 1-14; 24, 1-18; 25, 1-124; 26, 1-61; 28, 1-10.

** 環境庁 (編) (1993) 第4回自然環境保全基礎調査. 湖沼調査報告書. 中国・四国・九州・沖縄版 (鳥取県・島根県・山口県・徳島県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県). 環境庁, 東京, 31, 1-36; 32, 1-83; 35, 1-12; 36, 1-8; 42, 1-23; 43, 1-22; 44, 1-24; 45, 1-50; 46, 1-120; 47, 1-12.

* 川村多實二 (1918) 日本淡水生物学 上巻. 裳華房, 東京.

小林辰至 (1982) 神戸港のプランクトン. 神戸市立教育研究所, 神戸.

小久保清治 (1948) 浮遊生物分類学. 厚生閣, 東京.

小島貞男・須藤隆一・千原光雄 (編) (1995) 環境微生物図鑑. 講談社, 東京.

水野寿彦 (1964) 日本淡水プランクトン図鑑. 保育社, 大阪.

水野寿彦・高橋永治 (編) (1991) 日本淡水動物プランクトン検索図説. 東海大学出版会, 東京.

盛下勇 (1965) 活性汚泥の原生動物学. 環境産業新聞社, 東京.

盛下勇 (1969) 活性汚泥と原生動物. 汚水原生動物学概論. 水道産業新聞社, 東京.

日本海洋データセンター (2002) 海洋生物コード (プランクトン) 2001年度版. 日本海洋データセンター, 東京.

岡田 要 (1965) 新日本動物図鑑 (上). 北隆館, 東京.

滋賀の理科教材研究委員会 (編) (2005) やさしい日本の淡水プランクトン (一瀬論, 若林徹哉監修). 滋賀の理科教材研究委員会, 滋賀.

須藤隆一・稲森悠平 (1983) 生物相からみた処理機能の診断. 産業用水調査会, 東京.

田中正明 (1992) 日本湖沼誌. プランクトンから見た富栄養化の現状. 名古屋大学出版会, 名古屋.

田中正明 (2002) 日本淡水産動植物プランクトン図鑑. 名古屋大学出版会, 名古屋.

田中正明 (2004) 日本湖沼誌II. プランクトンから見た富栄養化の現状. 名古屋大学出版会, 名古屋.

千原光雄・村野正昭 (編) (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説. 東海大学出版会, 東京.

津田松苗 (編) (1975) 日本湖沼の診断. 富栄養化の現状. 共立出版株式会社, 東京.

内田清之助 (1952) 改訂増補日本動物図鑑. 北隆館, 東京.

内田清之助 (1927) 日本動物図鑑. 北隆館, 東京.

日本分類学会連合 (2003-) 日本産生物種数調査. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/ujssb/biodiv/index.html>

山路勇 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑. 保育社, 大阪.

安中徳二・渡部春樹・小森行也 (1986) 活性汚泥棲原生動物に関する全国調査報告書 (検鏡結果). 土木研究資料第2289号.

吉村信吉 (編) (1944) 日本湖沼学文献目録 第1集. 日本陸学会誌, 別巻1, 1-131.